

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県上県郡上県町榊崎公園

対馬野生生物保護センター

電話：0920-84-5577

ファクス：0920-84-5578

E-mail: twcc@cool.ne.jp

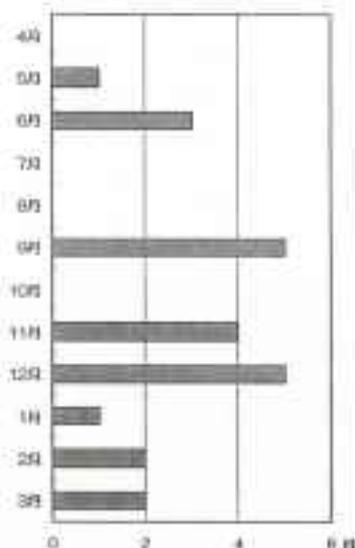


仔ネコがひとり立ちを始める季節です 安全運転を心がけましょう

92年から2003年7月までに、交通事故で死亡したツシマヤマネコは、全部で23頭。死体で発見された数の実に半数以上にのぼります。現在の推定生息数が70～90頭であることを考えると、大変な数字です。

その交通事故も、右グラフのとおり、9月以降の秋から冬にかけてが多くなっています。特に秋は、春に生まれたヤマネコが、ひとり立ちする最中で事故に遭っているのではと考えられています。今年もそろそろ仔ネコがひとり立ちする季節です。貴重な1頭が、無事成長しておとなになれるよう、見守ってあげたいですね。

月別ヤマネコ交通事故件数



動物の交通事故現場の 検証を始めます

動物の事故が起こる場所には、いくつかの共通点があると言われています。ツシマヤマネコの場合も、同じ場所で複数回事故が起こっているところもあります。島民のみなさまに安全運転をお願いするだけでなく、事故の起こりにくい道路にしていくことも考えなければいけません。そこで、センターと長崎県では、ツシマヤマネコだけでなく、イエネコやテン、イタチなどの交通事故現場の情報収集と現場検証を実施することにしました。道路上で動物の死体を発見した方は、場所（なるべく詳細に：道路のどのあたり等）と発見時間をセンターまでお知らせください。

途中経過や解析結果は、今後の「とらやまの森」やホームページ上に公表していきます。

ツシマヤマネコの着ぐるみに名前をつけてね！！

ツシマヤマネコ保護の普及啓発の為に、昨年誕生した「ろくべえ」の妹として新しい着ぐるみを製作しました。

そこで、この着ぐるみの名前を募集します。着ぐるみはツシマヤマネコのメスです。みなさん、ふるってご応募下さい！！

募集要領

1. 誰からも末永く親しまれる、女の子の名前を考えて下さい。
2. はがき又はFAXで、考えた名前・住所・氏名・電話番号を明記して、対馬野生生物保護センターまでご応募下さい。
3. 締め切りは8月末です。

☆9月に決定し発表する予定です。

採用者には
ツシマヤマネコグッズ
プレゼント！！



小麦収穫!

木庭作に、地域の方々からのご協力を頂いています

ヤマネコのための環境作りとして行ってきた木庭作も2度目の麦収穫をむかえました。今年、作付した麦は全部で4ヶ所、合計約10アール。大麦は、実を小動物の餌にするために刈り取って放置しましたが、1ヶ所では小麦を収穫しました。この小麦は、上対馬町の武末尚子さん(写真)に分けていただいた1kg程の小麦から育てたものです。とらやまの森19号でもご紹介した國分学さんのご協力で、麦撒きから収穫、天日干し、脱穀を手作業で行いました。脱穀は棒で叩いて行いますが、たった30~40kg程度の小麦をきれいにするためにこんなにも時間と手間が必要だったということをもっと知りました。しかし、作業中に話す世間話も現在のあたたかい生活にはなくなってしまった貴重な時間だなど感じました。



ご先祖から譲り受けた手織りの蓑を着た武末さん

この麦は、武末さんの指導の下、加工して麦茶にしました。作り方は至って簡単。大きな鍋でじっくり煎るだけです。ただし、焦げ付かないようにずっと混ぜる必要があるのも、ものすごい暑さを覚悟しての作業です。武末さんは「地元対馬の私たちが、何かヤマネコのためにできることがあれば」と、麦茶作りを教えてくださいました。この手作り麦茶、どこか昔なつかしい、香ばしい味がします。國分さん、武末さんのご協力のできた麦茶はセンターの窓口でお分けします。



麦刈りももちろん鎌で

GWの野鳥観察レポート 実習生 木村明子

対馬はバードウォッチングの世界では憧れの地のようなです。そこで、センターでは、ゴールデンウィーク中の野鳥情報をたくさん提供しようと、野鳥好きの実習生木村さんに情報収集をお願いしました。彼女は対馬に魅せられて遠く北海道からやってきた大学4年生。彼女のレポートの一部を紹介します。秋の渡りが楽しみです。

最も多くの鳥が観られたのは、対馬に入った初日の4月26日。上空には無数のツバメが飛び交い、草地をのぞけばこれまた数え切れないほどのキマユホオシロ、コホオアカ、カシラダカの混群が!その後、4月30日も種類数では26日を上回る鳥が観察されました。この26日と30日には共通点があります。一つは前日が雨だったということ、特に26日は3日間降り続いた後の晴天でした。二つ目は前日に強い風が吹いていたということ。29日には4月の最大風速を記録しています。このように、雨が降る、強風が吹くなどの悪天候に遭遇すると、九州北部から朝鮮半島に向けて渡ってきた鳥たちは、途中で渡りを断念して、緊急避難的に対馬に逃げ込んでくる傾向があるようです。ムラサキサギやアカカシラサギ、セグロサバクヒタキなどの珍鳥が確認されたのもこの2日でした。

一方で、バードウォッチングのために最も人が集まった5月3~5日は、残念ながら、天候に恵まれず(いい天気だったので)、ガクンと観察種が減ってしまいました。はるばる全国からいらした皆さんがバードウォッチングを楽しめなかったのではと、とても残念です。秋の渡りは、天気予報と相談しながら楽しみましょうね。



ムラサキサギ

セグロサバクヒタキ

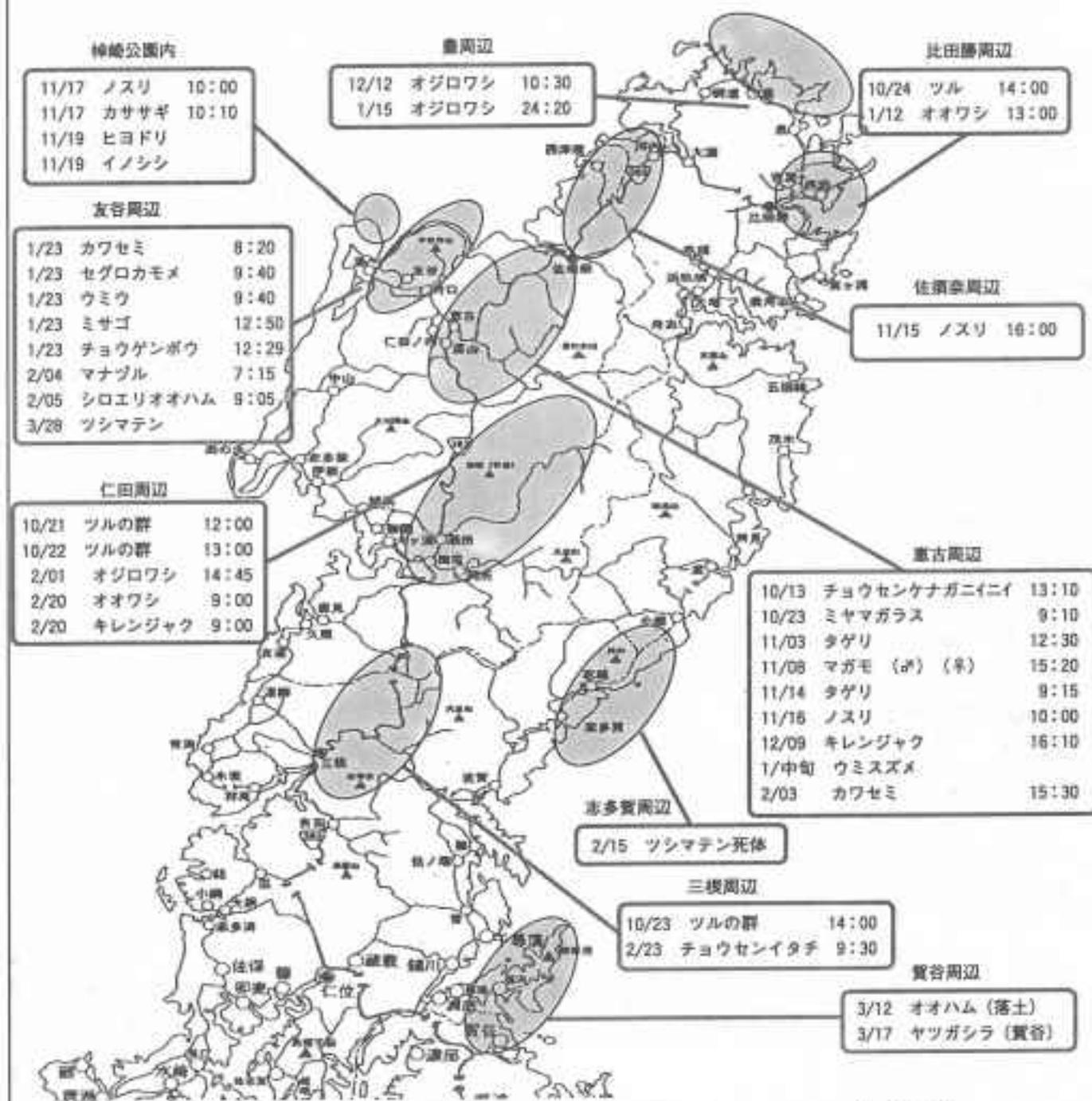


GWの野鳥記録はこちらのページで <http://twocool.ne.jp/bbs/joyful4/bird.htm>

秋から冬にかけての生きもの情報

【14年度後半(2002年10月～2003年3月)】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の生息情報を集めています。皆さんから寄せられた目撃情報のうち、ツシマヤマネコ以外の情報(2002年10月～2003年3月)をまとめてみました。今回は野鳥の目撃情報が多数寄せられています。



情報を提供して下さった皆様、ありがとうございました。
夏が過ぎるころ、あなたの近くでも、上の情報マップで目撃されている生き物の姿が見られるかもしれません。皆さんも生き物の声や姿を見つけてみてはいかがでしょうか。

1/12 ミサゴ (難知ダム上空)
1/12 ハヤブサ (難知ダム上空)
3/27 ヤツガシラ (豆敷崎)

新宿でも大人気、ツシマヤマネコ！ 絶滅危惧種展開催

6月3日から15日、東京新宿にある新宿御苑で、環境月間中の企画として絶滅危惧種展が開催されました。全国の数ある絶滅危惧種の中でも、今回はツシマヤマネコが大きく取り上げられ、ツシマヤマネコの現状や保護活動が紹介されました。

中でも、ペーパークラフトコーナーが子どもたちに人気。このペーパークラフトは、センターのホームページでもダウンロードできるので、ぜひ印刷して作ってみてくださいね。

期間中に訪れた人は5,726人、センターの1年間の来館者の約半分です。

この準備や運営には、これまでセンターで実習をしたことのある学生たち10数人が参加してくれて、対馬の思い出話にも花が咲いた様子。遠く離れた東京で、対馬のことを考えてくれる人がいるというのは、うれしいものです。

このときの展示物は、対馬島内の公民館等を巡回する予定です。詳しくは以下のイベント情報をご覧ください。



大人気！ ペーパークラフトコーナー

★イベント情報★

第12回自然教室 虫の音を聴く会



日時：8月9日(土)

18時～20時

講師：柚木 修(ナチュラリスト)

集合場所：舟志分校跡

定員：10名(要事前申込み)

参加費：100円(保険料として)

夏の夕暮れに、虫の音を聴きながら外を歩いてみませんか？

夏休み「ツシマヤマネコ展」開催

この夏、移動ツシマヤマネコ展を対馬島内3ヶ所で開催します。ツシマヤマネコについての解説パネル、鳴き声、フン分析、重さ体験、足跡などのコーナーがあなたの町の公民館に設置されます。行きたかったがセンターは遠かったという方、自由研究の学習をする小中学生のみなさん、この機会にぜひご活用ください。

詳しい日程については下記をご覧ください。

夏休み ツシマヤマネコ展 開催日程

期間	会場	備考
7/26(土)～8/8(月)	上対馬総合センター	休館日：7/27(日)、8/3(日)
8/13(水)～8/28(金)	厳原町中央公民館	休館日：8/17(日)
8/27(水)～9/4(木)	豊玉町中央公民館	豊玉は期間中の休館日なしです

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

8月 4、11、18、25

9月 1、8、16、22、29

10月 6、14、20、27

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第22号は10月発行の予定です。

季とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県上県郡上県町神崎公園
対馬野生生物保護センター

電話：0920-84-5577

ファックス：0920-84-5578

E-mail: twcc97@yahoo.co.jp

ヤマネコの一般公開の準備が進んでいます

～年内公開を目指して着々と～



公開予定のツシマヤマネコ

対馬野生生物保護センターの敷地内に、ツシマヤマネコを飼育するためのケージを整備中です。5頭収容できる施設で、そのうちの1ケージ（1頭分）は、来館者の方々にツシマヤマネコの生きた姿を見ていただくための公開ケージ、残り（4頭分）はツシマヤマネコの保護収容、野生復帰のリハビリなどのためのケージとして整備しています。

ツシマヤマネコは野生の状態でめったに見ることができません。その原因は、ツシマヤマネコが減少したこと、島の人たちが山に入る機会が減ったこと、ヤマネコの警戒心が強いことなどがあげられ、対馬の人でさえ大半がツシマヤマネコを見たことがないのが現実です。環境省では、そのような状況をふまえ、一般の方々が実物を見ることによって、よりツシマヤマネコへの関心や保護意識が高まり、保護活動をさらに推し進めることを目指して一般公開を行うこととしました。

これを機会にセンターに来て、ツシマヤマネコを身近に感じていただければと思います。なお、公開にあたっては、公開する予定のツシマヤマネコがFIV（通称ネコエイズ）というウィルスを持っていることもあり、なるべくストレスを与えないような公開方法を取ることになります。物かげに隠れるなどして十分に見ることもできないことも予想されますが、そのときは館内で流すビデオでご覧ください。また、ヤマネコの体調しだいでは、公開を休止することもありますので、あらかじめご了承ください。

具体的なスケジュールはまだ未定ですが、年内には公開の予定です。詳細は12月に入ってからセンターまでお問い合わせください。

ツシマヤマネコの本が出版されました！

ろうきんブックレットの「ツシマヤマネコ」が出版されました。ツシマヤマネコの最新の情報や、対馬野生生物保護センターにやってきたヤマネコたちの素顔、ヤマネコ保護活動に関わっている地元の人たちが多く紹介されていて、親しみやすい内容になっています。

これを読んだらあなたもヤマネコに関心と愛情がわくこと間違いなし！購入は九州労金長崎県本部までご連絡ください。

ツシマヤマネコ 定価500円（税込み）

対馬の森で一野生との共存をめざして

著者 ツシマヤマネコBOOK編集委員会

発行 九州労金長崎県本部（095-827-3143）

ツシマヤマネコ



夏のイベント報告 ～今年の夏は初めての試みがいくつかありました。～

ツシマヤマネコの棲む島、対馬でその保護を考えるスタディーツアー



地元の方の案内で
御岳国有林を見学

8月24日～26日(2泊3日)で学生を対象とした「ツシマヤマネコの棲む島対馬でその保護を考えるスタディーツアー」を開催しました。北は北海道、南は鹿児島県からきた9名の学生(18歳以上)は、センターでの解説、3名の講師(日本獣医畜産大学 羽山伸一助教授、ナチュラリスト 柚木 修氏、対馬自然保護官 山本 麻衣)からの講義、海・山・農業の3つに分かれての現地見学、そして対馬住民・行政の方々との座談会を通じて、様々な側面からツシマヤマネコ保護を学び、対馬を後にしました。参加者はツシマヤマネコや野生

動物の保護活動に関心があり、大学、専門学校などで勉強をしているとのことでしたが、学校では学ぶことのできない現場の動き、考え、難しさなどに直に接することができたようです。ツシマヤマネコの棲む対馬だからこぞできた今回のツアーですが、今後も機会をみて開催したいと思います。



対馬青年の家での座談会の様子

好評！ツシマヤマネコ展

7月末から上対馬、厳原、豊玉をリレーして開催したツシマヤマネコ展は多くの方にご利用いただき、ヤマネコの置かれている現状や保護活動を知っていただくことができました。開催場所が公民館であるということもあり、設置直後に待ちかねたように親子連れで寄る姿も見られました。今後も島内外でこのようなヤマネコ展を開催したいと思っていますので、お近くの学校や公民館での開催をご希望の方はセンターまでご相談ください。



ヤマネコのフン分析コーナー
に夢中の子どもたち

自然教室「虫の音を聴く会」

「虫の音を聴く会」は上対馬舟志分校跡とその周辺で開催されました。虫の音を聴くには少し早い時期でしたが、意外な程多くの虫がすでに鳴き始めていることに驚きました。また普段いかに音を聴き逃しているかを改めて知り、生き物の多さに感心しました。

コラム

ホームページ「対馬植物図鑑」のご紹介

ホームページ(以下HP)「対馬植物図鑑」はボランティアとしてセンターのHPを制作・管理している西護さんが制作したものです。その中の膨大な数の植物の写真は「対馬の自然」(杉谷書店)の著者のひとり、國分英俊先生が全て撮影され、解説を加えられたものです。これらの写真はセンターで活用できるようにとご提供頂いたもので、西さんとどのように活用するか考え、この企画が実現しました。対馬の植物をご自宅でゆっくり眺めてみてください。

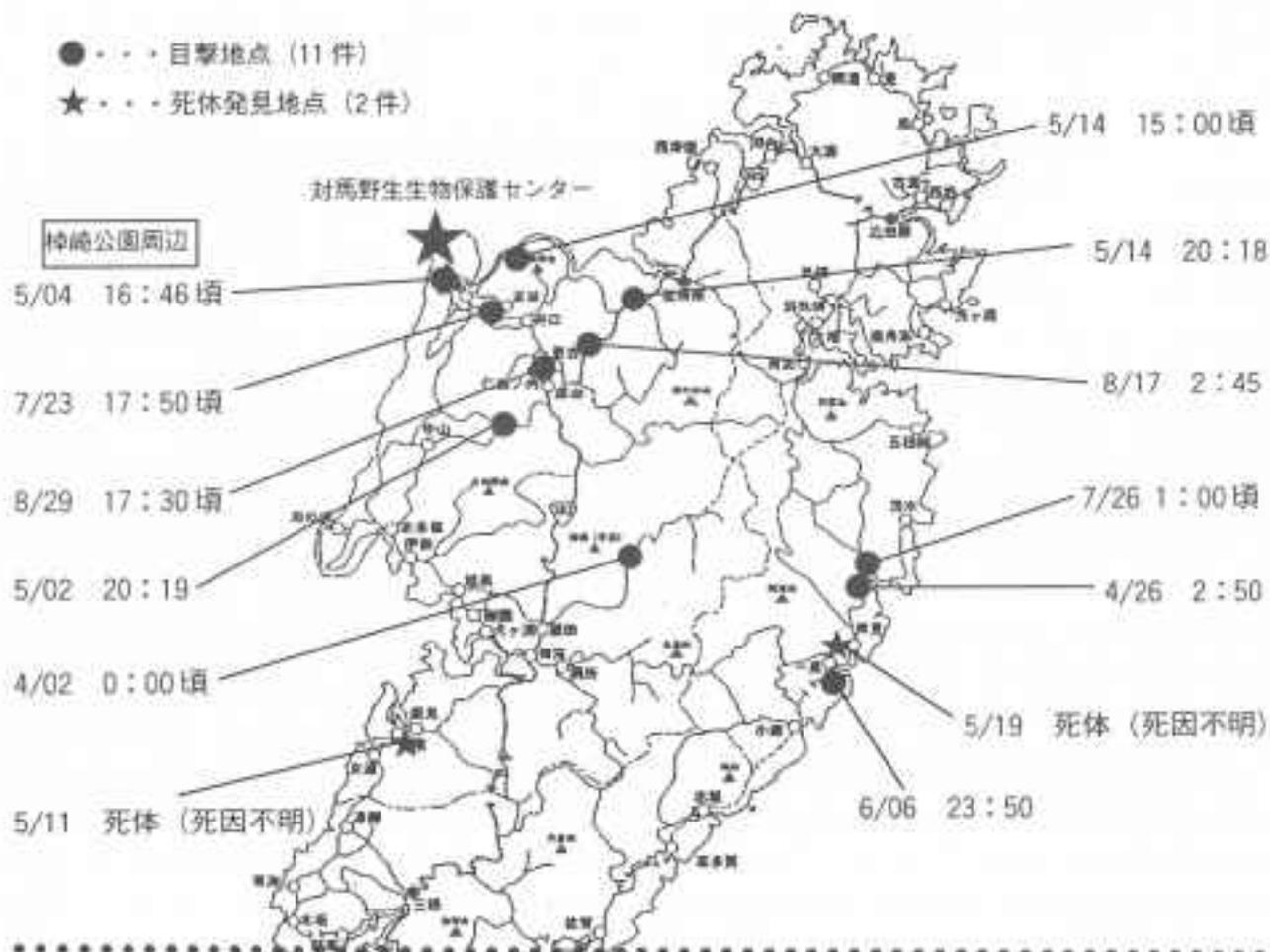
～國分先生からのメッセージ～「西護さん、野生生物保護センターのみなさんをはじめ、多くのボランティアのみなさんの力でこれだけの植物図鑑ができあがったことがたいへんうれしいです。この対馬植物図鑑を通して対馬に生えている植物を島内外の多くの方々を知ってもらい、自然の美しさ、尊さを感じてもらうことができればと思っています。素人集団が作った植物図鑑なので間違い等もあると思いますが、徐々に訂正しながら充実したものにしていきたいです。対馬植物図鑑は多くの方々に利用してほしいと願っています。」

春から夏に目撃されたツシマヤマネコ生息情報

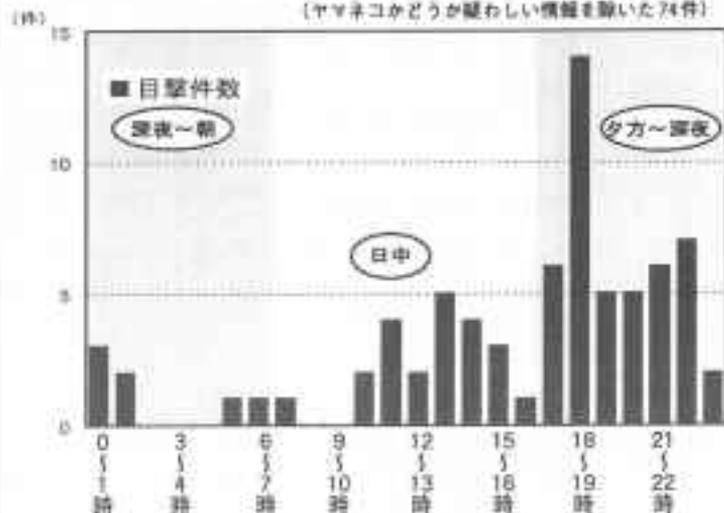
平成15年度前半【2003年4月～2003年9月】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の目撃情報を集めています。今回は、2003年4月～9月（15年度前半）の皆さんから寄せられたツシマヤマネコの生息情報をまとめました。

- ・・・目撃地点（11件）
- ★・・・死体発見地点（2件）



（ヤマネコかどうか確かでない情報を除いた74件）



ヤマネコ目撃情報の時刻

2000年から2002年度の3年間にセンターに寄せられたヤマネコ情報の「目撃時間」を時刻別に集計したのが、左のグラフです。

ヤマネコは、日中比べて夕方から夜間によく目撃されています。深夜から朝にかけての情報が少ないのは、この時間は、人間が眠っているからでしょう。

ヤマネコは主に夜間、活動していますので、夜に道路を横断したり、人目に触れる機会が増えます。

特に夜間は、ヤマネコのためにもご自分のためにも安全運転をよろしくお願いいたします。

★情報を提供下さった皆様、ご協力ありがとうございました。

ツシマヤマネコ交通事故防止キャンペーンで「つばき」初仕事



ヤマネコ交通事故防止を呼びかけるつばき

着ぐるみの愛称は「つばき」に決定！

「とらやまの森」21号で募集していたツシマヤマネコの着ぐるみの愛称が決定しました。応募総数172通の中から、対馬を代表する花であり女の子らしく親しみやすい、という理由で厳原町の上野実子さん、東京都の本間裕子さんよりご応募いただいた「つばき」に決定しました。たくさんのご応募ありがとうございました。つばきは今後、イベントなどツシマヤマネコ保護のために活躍する予定です。

ヤマネコにも人にも優しい安全運転をお願いします

9月21日から30日の「秋の全国交通安全キャンペーン」に合わせてツシマヤマネコの交通事故防止も呼びかけました。島内では初登場となるつばきも参加して「ヤマネコにも優しい運転を」とドライバーに呼びかけ、ステッカーやチラシを配布しました。

★秋からは仔ネコが一人立ちする季節です。夜間ヘッドライトに光る目にご注意下さい

□■ イベント情報 ■□

自然教室

どんぐりさがしハイキング

どんぐりの実る森でその種類について教わりながら、ヤマネコが棲む対馬の森のことを考えてみませんか？探したどんぐりからは苗を作り、ヤマネコのための森作りに活用します。

講師：長渡稔治さん（環境省 自然公園指導員・花の対馬ネットワーク 会長）

日時：10月25日（土）10:30～12:30

参加費：保険料100円

会場：上県町佐護 バードウォッチング公園周辺
（10:30現地駐車場に集合）

定員：15名（要申込み）

持ち物：昼食・ビニール袋・軍手・歩きやすい靴 ※ 雨天中止

木庭作芋掘りボランティア
大募集

ツシマヤマネコのための木庭作はヤマネコが多く暮らしていた頃の人間の生活を思い起こさせてくれます。収穫の秋に山間の小さな畑で芋掘りをしながら自然と人間のこと、ヤマネコのことを考えてみませんか？

日時：11月8日（土）10:00～15:00

場所：志多留・田の浜（上県町）

参加費：保険料100円

定員：20名（要申込み）

※ 国道382号沿い、佐護バス停10:00集合

※ 昼食持参

※ 雨天の場合翌日9日（日）に順延します。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

11月 4、10、17、25

12月 1、8、15、22、29、30、31

1月 1、2、3、5、13、19、26

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第23号は2004年1月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県上県郡上県町棹崎公園

対馬野生生物保護センター

電話：0920-84-5577

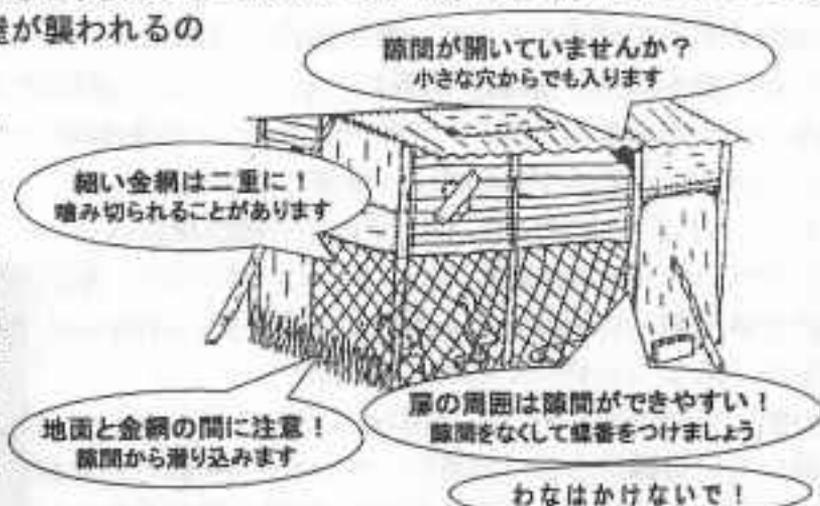
ファクス：0920-84-5578

E-mail: twcc97@yahoo.co.jp

あなたの鶏小屋は大丈夫ですか？

昨年のとらやまの森18号でもお伝えしましたが、冬場はヤマネコにとって餌が少ない季節です。寒くなるにつれて、ネズミなどのヤマネコの餌が減ると言われています。また、テンが好きな果実もなくなります。そうすると、彼らにとって特に鶏が魅力的に見えるのでしょう。これまで、ヤマネコやテンに鶏小屋が襲われるのは圧倒的に冬が多いのです。

野生動物にとっては、人のものかどうかの区別はつきません。また、襲ったヤマネコやテンを取り除いたとしても、他の個体がやってくるので、きりがありません。つまり、鶏小屋を補強するしか方法がないのです。愛情込めて育てた鶏のためにも、右図のポイントをもう一度チェックしてみてください。



お騒がせヤマネコ・トモオくん

ろうきんブックレット「ツシマヤマネコ」の中で、友谷（ともや）という集落が好きなので

「トモオ」と仮に名づけたヤマネコ（Mm-13）が、また友谷で保護されてしまいました。彼が保護されたのはこれで3度目。最初は交通事故に遭ってケガをして、2度目は一昨年の夏に鶏を10羽も殺してしまっただけでなく、鶏小屋の中で、3度目の今回も鶏小屋の中でした。

センターに連れて帰って血液検査をしたところ、特に異常はありません。約10日後、野生に帰すことに決めたのですが、友谷の集落の方にとっては前科2犯のヤマネコなので、複雑な思いがあるはず、と考え、集落の公民館に集まっていたいて説明会を行いました。

説明会で「山に放すことになるので鶏小屋の戸締りを。」と呼びかけたところ、最終的には「仕方なかねえ、友谷のトモオじゃけんねえ」と理解していただきました。また、昔からのヤマネコのエピソードなどを多く聞かせてもらい、思いもかけず対話の場となりました。



このトモオくん、実は一昨年の夏にはセンターから脱走するという暴挙(?)をなしたヤマネコです。そのときにも、センター職員はチラシを持って集落を回りましたが、おかげで集落の人たちの生の声を聞くことができました。どうやら、彼のお騒がせぶりは、センターに地元の方々との接点を作ってくれているようです。でももう戻ってこないでね…。

* センターでは、通常は野生動物であるヤマネコに名前はつけません。本の中で便宜的に名づけたもの。

ツシマヤマネコの一般公開が始まりました



一般公開中のツシマヤマネコ

昨年12月9日より、ツシマヤマネコの一般公開が始まりました。公開から1月29日までの期間に、島内から1,952名、島外から722名の来館がありました。この季節、例年は来館者が少ない時期ですから、みなさんヤマネコに会うためにセンターまで来てくださったようです。特に島内でも、今まで足を運ぶには遠かった蔽原町、美津島町からのご家族が目立ちます。

対馬に住んでいてもなかなか見る機会のないツシマヤマネコですから、いらっしゃる方のほとんどがヤマネコの実物を見るのは初めてです。見学の後にご記入いただいたアンケートでは、「かわいい」「初めて見て感動した」「保護の重要性を感じた」という感想が多く寄せられました。1月いっぱい募集している名前も、スタッフの予想以上に一生懸命考えてつけてくれています。いい名前を選んで次回の「とらやまの森」で発表しますね。

また、これまで以上にセンター内にある他の展示もじっくり見られる方が多くなったように感じます。ヤマネコを見る、ということだけでなく、彼らを取りまく厳しい現実を知る機会となるよう、これからも展示を工夫していきたいと考えています。

心配していたヤマネコも、今のところそれほどストレスを感じている様子もなく元気にしています。今後も注意深くモニターを続けていきますが、もし体調に異常が見られた場合には、公開は休止することもありますので、その際はご了承ください。

観察室から見た公開ケージの様子



声

ヤマネコ解説ボランティアに参加して

ツシマヤマネコの一般公開に伴い、センターのボランティアグループである「ツシマヤマネコ応援団」から解説ボランティアを募集しました。その募集に答えて、何名かの会員の方々に、センターの来館者のみなさんと直接対話をしながら公開されたヤマネコの見学のサポートをしていただきました。解説ボランティアに参加された田村健二さんによると『今までヤマネコ自体を見たことが無いので感動しました。施設の立派さもさることながら、ヤマネコのことをよく知ることができると思いました。一度だけではなく、二度、三度とだれかを連れてヤマネコを見せに行きたくなります。ボランティアをして、センターに1日居ましたが、センターの職員の方々と一緒に生き物の話などをするのが楽しく、飽きませんでした。またヤマネコの公開以外の仕事を一緒にできたことも良い思い出になりました。』ということでした。ツシマヤマネコの公開を通じて来館者の皆さんとのコミュニケーションが増えてきたというのもプラスの効果だと思います。

ツシマヤマネコ応援団はセンターの活動支援や勉強会、観察会などを通じてヤマネコ保護に参加することを目的としたボランティアグループです。入会ご希望の方は事務局（センター内 電話0920-84-5577）までご連絡ください。

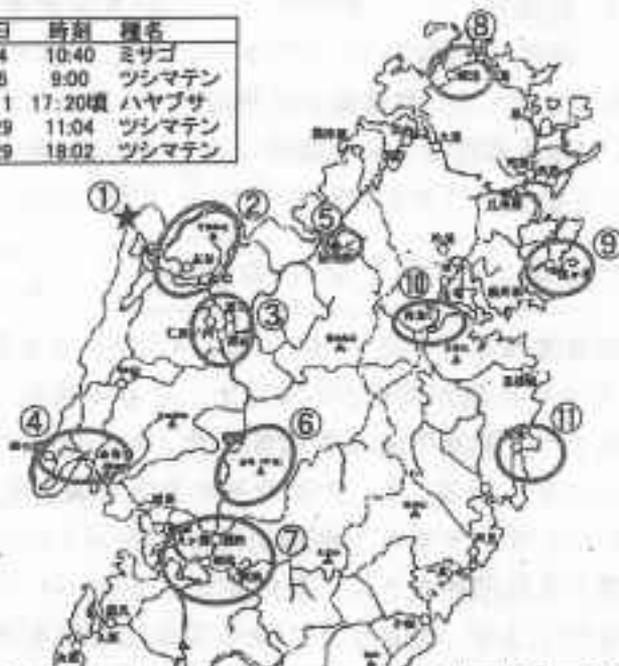
春から秋にかけての生きもの情報

【15年度前半（2003年4月～2003年9月）】

対馬野生生物保護センターでは、野生生物の生息情報を集めています。皆さんから寄せられた目撃情報のうち、ツシマヤマネコ以外の情報（2003年4月～2003年9月）をまとめてみました。今回は野鳥の目撃情報が多数寄せられています。

番号	月日	時刻	種名
① 神崎公園	4/4	10:40	ミサゴ
	5/5	9:00	ツシマテン
	5/11	17:20頃	ハヤブサ
	5/29	11:04	ツシマテン
8/29	19:02	ツシマテン	

番号	月日	時刻	種名
② 廣・友谷・井口	4/2	10:30	カナダヅル
	4/2	9:20頃	ヤツガシラ
	4/4	9:20頃	ハイタカ
	4/4		オオハム
	4/4		シロエリオオハム
	4/4	1日中	ダイサギ
	4/4	1日中	チュウサギ
	4/4	1日中	コサギ
	4/17	12:00頃	アビ
	4/26	9:00	シロエリオオハム
	4/26	10:00	セグロサバクヒタキ
	4/26	10:15	セイタカシギ
	4/26	10:00	キマユホオヅロ
	4/26		コホオアカ
	4/26		カシラダカ
	4/26		ノジコ
	4/26		シベリアアオジ
	4/27	18:30	コシヤクシギ
	4/27		タイワンハクセキレイ
	4/29	10:00	アカガシラサギ
	4/29	10:30	キタツメナガセキレイ
	4/29		カワセミ
	4/29	17:00	ツバメチドリ
	4/30	8:00	ツバメチドリ
	4/30	8:00	カラスバト
	4/30	8:00	ムラサキサギ
	4/30	9:00	アカガシラサギ
	4/30	19:00	オジロシギ
5/1	14:10	アオアシシギ	
5/1	14:10	ムナグロ	
5/1	14:10	オグロシギ	
5/1	14:10	カワラヒワ	
5/3	15:10	コチドリ	
5/3	15:40	ムネアカタヒバリ	
5/3	15:40	タヒバリ	
5/4	8:30	ムラサキサギ	
5/21	5:00	ヤマショウビン	



番号	月日	時刻	種名
③ 直古・仁田ノ内・栗山	4/3		ツシマテン
	4/4	10:20	ヤマガラ
	4/4	10:50	ジョウビタキ
	4/4	9:20	アカハラダカ
	4/26	17:30	ダイゼン
	4/27	17:30	ヒメコウテンシ
	4/27	17:30	ムネアカタヒバリ
	4/27	18:30	ムナグロ
	4/30	8:00	ハイタカ
	5/4	9:55	エゾビタキ
	5/11	12:00	☆ブッポウソウ
④ 志多賀・田ノ浜	4/25	9:36	ヤマショウビン
	4/30	16:00	カシラサギ
	5/4	10:15	キアシシギ
	5/4	10:15	カラシラサギ
	5/13	18:50	カワセミ
	5/27	10:00頃	☆ブッポウソウ
5/27	18:00頃	ヤマショウビン	

番号	月日	時刻	種名
⑤ 佐須俣	4/8	8:30	ヤツガシラ
⑥ 御前	4/30		キビタキ
⑦ 仁田	4/26	11:30	アカガシラサギ
⑧ 網浦	5/1	11:45	ミサゴ
	8/22	13:00	テンの死体
⑨ 富ヶ浦	8/24	12:00	ツシマテン
	4/4	15:30	クロサギ
⑩ 舟志	5/3	17:30	ヒメアマツバメ
	5/4	8:00	コルリ
	5/4		オオヨシキリ
⑪ 茂木	4/3		オオミスズナギドリ
	5/4	14:30	オオタカ

下島郡(豊玉町)の情報 ※地図なし
高瀬子岳 5/11 11:30 ☆ブッポウソウ



ブッポウソウ (姿のブッポウソウ) コノハズク (声のブッポウソウ)

ブッポウソウ(表中の☆印)は、頭は黒、羽や体は光沢のあるぐんじょう色の鮮やかな鳥です。ブッポウソウという名前は鳴き声からきています。でも実は、「ブッポー・ブッポーソウ(仏法僧)」と鳴くのはコノハズク(フクロウの一種)なのです。昔の人は、なかなか見られないコノハズクの良い声を美しいブッポウソウのものと勘違いしたようです。実際のブッポウソウは「ゲッ、ゲゲッ」という見た目に合わない声で鳴きます。

生きもの情報にご協力下さった皆様、ありがとうございました。センターでは生きものや植物など自然に関する写真も大歓迎です。展示させていただきますので、ぜひセンターまで！(郵送も可能)

イベント報告

自然教室「どんぐり
探しハイキング」

昨年10月25日のどんぐり探しハイキングは、秋晴れのお天気のもと、上県町・佐護のバードウォッチング公園で開催されました。環境省の自然公園指導員をされている長渡稔治さんを講師にお迎えして、どんぐりの見分け方を学びました。



どんぐりの種類も
色々です

木庭作芋掘り
ボランティア

昨年11月8日(土曜日)、上県町・志多留(したる)の芋畑で、木庭作(こばさく)芋掘りイベントが開催されました。子供たちは土の中から現れる芋やカエルに歓声をあげ、普段土に触れる機会が少ない大人の参加者にとっても、懐かしく楽しいイベントになりました。掘り出した芋は焼き芋にして皆でいただきました。



いっぱい大きな
おイモがとれたよ～

東京・北海道の大学でヤマネコ展

東京の日本獣医畜産大学(平成15年11月3～4日)と北海道の酪農学園大学(11月17～22日)でツシマヤマネコ展が開催されました。この2大学で中心となって準備してくれた2人に感想を聞きました。酪農学園大学獣医学科1年小池菜々子さん「予想以上に多くの方が足を止めて見ていってくれました。ツシマヤマネコの事を多くの人に知ってもらえたと思います。こうやって少しずつヤマネコ保護の輪が広がってほしいです」日本獣医畜産大学野生動物学教室5年松原ゆきさん「見に来てくださった人のほとんどがツシマヤマネコの存在を知りませんでした。初めてツシマヤマネコの写真を見て、かわいい!といった感想が多く聞かれました。多くの人にツシマヤマネコが絶滅の危機に瀕しているという現状を知ってもらえることができたと思います」。今後もツシマヤマネコ展は島内外で実施していきたいと思います。

■□今後のイベント□■

自然教室「春の植物観察会」

講師：國分 英俊

日時：3月21日(日) 13:00～15:00

参加費：保険料として100円

集合：対馬野生生物保護センター

定員：20名(要申込み)

※ 雨天中止



春は多くの花が咲く季節です。今回はセンター周辺の遊歩道で春の植物観察会を開催します。講師は「対馬の自然」の著者の國分英俊先生です。

※ 山道を歩きますので、歩きやすい靴でお出かけ下さい。



ナンゼンスミレ
(撮影：國分英俊)

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

2月 2、9、16、23

3月 1、8、15、22、29

4月 5、12、19、26

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第24号は2004年4月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファクス: 0920-84-5578

E-mail: twcc97@yahoo.co.jp

座談会開催！ツシマヤマネコと共に生きる対馬の未来を語る



2月から3月にかけて、上県町瀬田、上対馬町一重及び玖須で、「ツシマヤマネコと対馬地域の活性化」と題して、集落座談会を開催しました。それぞれ夕方に集会所に集まっておられ、ヤマネコについてのクイズで緊張をほぐし、昔話や目撃情報などを教えていただいた後で、本題の地域の活性化とツシマヤマネコの関係について議論をしました。

共存する地域のあり方について、ツシマヤマネコを保護することは、人の暮らしを排除すること
有意義な意見交換ができました。ではなく、「人もヤマネコもほかの動物もみんなが幸せになること」をキーワードに対馬の将来を考えました。集落ごとに少しずつ反応が違いましたが、いずれも有意義な議論ができました。全国でただ1カ所、ツシマヤマネコがいるという対馬の大きな特色を活かした島づくりを考えていく第1歩になったのではないかと思います。

対馬の集落は、全島で100以上ありますが、それぞれに成り立ちや歴史が異なります。集落の特性を知り、有効な活動を進めていくためにも非常に重要な取り組みだと考えています。これからも不定期でこのような座談会を開催していきたいと考えていますので、「うちの集落で開催してみたい」というご希望があれば、センターまでご連絡ください。

ツシマヤマネコニュース

◎福岡市動物園でFs-11死亡（1月24日）

ワナにかかって保護(平成13年12月)され、左前肢を切断し、野生復帰できずに飼育下繁殖に参加したヤマネコ(Fs-11、メス)が、オスと同居中にそのオスに咬まれて死亡。

◎今年も福岡市動物園でツシマヤマネコ誕生

今年もツシマヤマネコの赤ちゃんが誕生。なお、ほかのメス1頭についても交尾が確認されており、妊娠しているとすれば4月中に出産する予定。

出産日	頭数	オス	メス
3月28日	1頭	No.3	No.8
4月3日	2頭	No.3	No.13
4月10日	3頭	No.1	No.9

◎ツシマヤマネコ死体発見（4月5日）

平成14年11月センターで保護、野生復帰させたFt-17(メス・2歳)の死体を上県町佐護で発見。

ほく、「つしまる」です。
会いに来てね！

来館者を対象に募集していた公開中のツシマヤマネコの名前が「つしまる」に決まりました。



「つしまる」は応募総数1480票のうち14名の方からご応募いただき、対馬らしい動物の名前という理由で決まりました。これをきっかけに、ツシマヤマネコに対して親しみを持って頂ければ幸いです。皆さんも「つしまる」に会いに来てください！沢山のご応募ありがとうございました。

人の動き - 春は別れと出会いの季節 -

～3月末でセンターを去った3名から～



山本 麻衣（環境省・対馬自然保護官） この3年間で、数々のツシマヤマネコや対馬固有の動植物に出会いました。その中で最も印象に残ったのは、結局、対馬人だったかもしれません。ツシマヤマネコや島の将来について一緒に考え、試行錯誤を繰り返すうちに、対馬人とその暮らしの中にこそツシマヤマネコ保護の鍵があることを実感しました。これからもツシマヤマネコとともに生きる対馬であって欲しいと願っています。また対馬人に会いに来ます。3年間お世話になりました。

三谷 奈保（自然環境研究センター・研究員） 長かったようでアツという間の3年半でした。最初はヤマネコのこと、対馬のことほとんど知らなかったのですが、対馬の皆様によくしていただきながら徐々に分かっていくにつれ愛着がわき、今では第二のふるさとのように思えます。大変だったこともありましたが、今は楽しかったことや、豊かな海の幸、山の幸のことばかり思い出されます。人々のかたわらに何げなくヤマネコや対馬の生き物達が暮らし続ける賑やかな対馬であって欲しいと願います。皆様どうもありがとうございました。

荻野伊万里（事務補佐員） 短い間でしたが見るもの全てが楽しい一年間でした。なかでも対馬の人の温かさ、自然に出会えたことは大変嬉しく第2のふるさともなりました。静岡に行ってもここで学んだ様々なことを人に伝え、活かしていきたいと思えます。ありがとうございました。

～新たに職員としてスタートした4名から～

大林 圭司（環境省・対馬自然保護官） 対馬に来たのは初めて、ツシマヤマネコと会うのも初めてです。通勤途中の桜吹雪、一面の新緑や、ウグイスの鳴き声などが、東京暮らしで季節感が薄れていた私に強く春の訪れを感じさせ、自然と心新たな気分となります。これから対馬で暮らし、対馬の自然と人に多くのことを学び、そして対馬の自然と人に何かができたらと思っております。少し長い付き合いになると思えます。よろしく願いいたします。

檜山 智嗣（事務補佐員・調査などを担当） 対馬にはツシマヤマネコの研究のため、学生の頃からたびたび訪れていました。そしてこの春から実際に対馬で生活することになり、これまで住んでいた南国沖縄とは環境のまったく異なる対馬での新たな生活をとても楽しみにしています。みなさんどうぞよろしく願い致します。

木村 朗子（自然教室・総合学習担当） 対馬の自然に魅せられて、はるばる北海道から来てしまいました。鳥好きの私にとって、対馬はまさに夢の国。通勤途中に見られるナベヅルやミヤマホオジロの群れに、心躍らされる毎日です。これからは魚や植物、歴史なども含めて、対馬の素晴らしいところをたくさん見ていきたいと思えますのでよろしくお願い致します。

田代 三徳（対馬市 嘱託職員） 生まれも育ちも対馬ですが、ヤマネコを見たことはありませんでした。まだ慣れないところ、分からないことも多いですがよろしくお願い致します。一般公開が始まってからヤマネコ見学の案内係をしていますので、ぜひ見学に来て下さい。

この春から、新メンバーで頑張ります。よろしくお願い致します。

今年のGWは野鳥を見にいこう!

春を迎え暖かくなると、寒い冬を南の国で過ごしていた鳥たちが、北の繁殖地へと渡っていきます。海を越えるリスクを減らすために、飛び石状に海に浮かぶ日本列島を利用しますが、その中でも対馬は中国大陸へ渡る鳥たちの重要な休息地となっています。今年の春は、「野鳥の楽園」対馬で野鳥観察をしませんか?



日本周辺の春の渡りルート

♪ どこで見られるの?

いつでもどこでも、誰でも楽しめるのがバードウォッチング。対馬ではみなさんの家の周辺でも、本当にたくさんの鳥が暮らしています。まずは、身近すぎて気にもかけなかった鳥たちに目を向けてみませんか? 思いもよらない綺麗な鳥が、近くにいるかもしれませんよ。

♪ 必要なものは?

鳥をみるために必要なものは、「自然を楽しむ心」です。星空を見たり、釣りをしたり、みなさんの心安らぐひとときの中に、鳥のいる風景も加えてみませんか? 他に「双眼鏡」や「野鳥図鑑」などがあると、楽しさ倍増です。

♪ センター職員に聞きました♪ 対馬の春の渡り鳥といえは?

① ヤマショウビン

この鳥見たさに全国から人が集まる、幻の鳥です。でも対馬では普通?



② サンコウチョウ

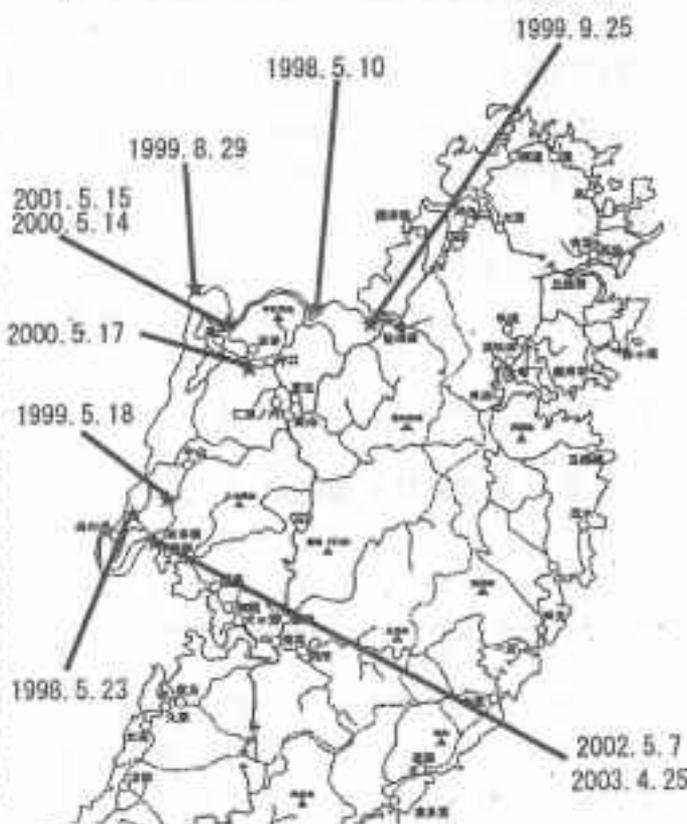
とってもトロピカルな感じ。「月日星ホイホイホイ」と鳴くので、「三光鳥」と呼ばれています。声・姿とも名前負けしない美しさです。

③ ツバメ

全国的に普通に見られる鳥ですが、対馬では春の渡りの時期になると、空を一面覆うようにツバメが飛び交います。その光景は一見の価値あり!



過去6年間の ヤマショウビン目撃情報



♪ みんなが気持ち良く観察するために♪

- ☆ 野鳥を驚かさないう、離れた場所から静かに観察しましょう。
- ☆ 田畑などで観察する時は、地元の方の邪魔にならないようにしましょう。
- ☆ 鳥も人も、みんなが楽しい、気持ちの良いバードウォッチングを心掛けましょう。

生きもの情報にご協力下さった皆様、ありがとうございました。センターでは生きものや植物など自然に関する写真も大歓迎です。展示させていただきますので、ぜひセンターまで! (郵送も可能)



暖かくなり、野外活動が楽しい季節です。
ふらりと散歩に出て、身近な季節の変化を感じてみませんか？

韓国も見えた！ 棹崎 春の植物観察会



上：ゲンカイツツジについて
園分先生の解説に聞き入る

3月21日（日）に園分英俊先生を講師にお迎えして、棹崎公園で植物観察会が開かれました。この観察会は、センター周辺の自然遊歩道を歩き、春を感じようという目的で実施しました。遠くは鮫原町久和から参加された方もいらっしゃいました。参加者21名で、スミレなどの春の植物や頂上付近のスタジイの森の中を歩きながら、ゆったりと春を感じることができました。またこの時期には珍しく、韓国を見ることもできました。棹崎公園よりも高い位置からの眺めはまた格別でした。対馬の植物は独特な種も多く、とても貴重なものです。自然観察を楽しみつつ、大切に見守っていきたいですね。この遊歩道は、来月以降も毎月実施する観察会のコースとして使用する予定です。詳しくは以下をご覧ください。

右：本来、対馬の森はこのようなシイやカシなどの照葉樹林です



■□これからのイベント□■

新企画！ 毎月第4日曜日は「棹崎 お散歩自然観察会」

棹崎の自然遊歩道や公園で季節を感じてみませんか？お散歩気分で行けば、今まで知らなかった対馬が発見できるかも知れません。この観察会はセンタースタッフがご案内いたします。参加ご希望の方は、当日センター窓口でお申し出ください。山道を歩きますので、はきなれた運動靴などをご用意ください。

月日：4月25日、5月23日、6月27日【毎月第4日曜日】

時間：13:00～14:30（12:45より受付）

参加費：100円（保険料として）※申込み不要 ※雨天中止



アケビの花（園分 英俊）

「つしまる」に会いにくる前に・・・

ツシマヤマネコの一般公開はヤマネコの体調などの理由により休止することがあります。ご来館の前に、センター（TEL：0920-84-5577）に確認されることをお勧めいたします。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

5月 6、10、17、24、31

6月 7、14、21、28

7月 5、12、20、26

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第24号は2004年7月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター
 URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先
 〒817-1605
 長崎県対馬市上県町榊崎公園
 対馬野生生物保護センター
 電話 : 0920-84-5577
 ファックス : 0920-84-5578
 E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

「対馬もヤマネコも」 ツシマヤマネコと地域の活性化 8月22日(日) 市民シンポジウム開催!

現在まで、多くの方々と共にツシマヤマネコの保護に取り組んできましたが、今年その保護の取り組みが大きな転換点を迎えようとしています。対馬野生生物保護センターでは「ツシマヤマネコか人か」ではなく、「人もツシマヤマネコも他の動物もみんなが幸せになること」をテーマに対馬の未来を考えていきたいと思っています。そしてそのためには、ツシマヤマネコの保護が地域の産業と結びつき、地域の活性化につながるべきだと考えています。

今回このシンポジウムでは、ツシマヤマネコの保護の新しい展開についてご紹介します。そして、ツシマヤマネコと同じく希少野生動物であるコウノトリとの共生をテーマに地域振興を図り、日本で最も成功している兵庫県豊岡市にある県立「コウノトリの郷公園」から講師をお招きしお話を伺います。それを参考に、ツシマヤマネコをはじめとする素晴らしい対馬の自然を守りながら、地域活性化のために、行政、専門家そして市民に何ができるのか話し合いたいと思っています。

このシンポジウムが、「ツシマヤマネコと本当の意味で共生する社会」を皆さんと一緒に作るための第一歩になるでしょう。お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

シンポジウムのご案内

「対馬もヤマネコも」
 ツシマヤマネコと地域の活性化
 開催日 : 8月22日(日)
 開場 : 13:30
 開演 : 14:00 ~ 16:30
 会場 : 対馬グランドホテル
 ※送迎バスあり
 問い合わせ : 0920-84-5577

ツシマヤマネコニュース

● メスの交通死亡事故と幼獣の保護

一保護されたツシマヤマネコの幼獣。次第に体重も増え、元気になってきました。



● 今年の福岡市動物園の飼育下繁殖の結果今年、福岡市動物園で生まれた仔ヤマネコは8頭で、そのうちの6頭が無事に成長しています。

個体番号	性別	誕生日	父	母	備考
No.22	オス	3月28日	No.3	No.8	
No.23	オス	4月3日	No.3	No.13	
No.24	メス	4月3日	No.3	No.13	
No.25	メス	4月10日	No.1	No.9	
No.26	不明	4月10日	No.1	No.9	4月23日死亡
No.27	不明	4月10日	No.1	No.9	4月13日死亡
No.28	オス	4月19日	No.1	No.10	
No.29	オス	4月19日	No.1	No.10	

6月20日対馬市上県町の国道382号線路上で交通事故により死亡したヤマネコ(成獣メス)が発見されました。その後同月25日に交通事故地点付近で住民の方が幼獣を目撃したという情報提供を受けて捜索を行い、27日に前述の交通事故路地点近くの路上にいるところを発見し、対馬野生生物保護センターに保護しました。この幼獣は交通事故で死亡したメスの子供ではないかと思われます。保護された時は非常に痩せていました。

対馬の山にとらやまの森を

ツシマヤマネコをはじめとする
対馬のいきものたちの暮らしを残すために

対馬では、45年ほど前に植林されたスギ・ヒノキなどの大規模な人工林伐採が始まります。しかし、伐採されたあとの山の多くは何の手入れもされずに放置されてしまう可能性があるそうです。伐採後放置された山は、表土が乾燥・流出し、森への回復が遅れるだけでなく、土砂崩れなどの災害も起こりかねません。そんな状況の中地元対馬の人たちが立ちあがり、「とらやまの森」再生プロジェクトがスタートしました。「対馬に昔から生えて



どんぐりを苗畑に植えました

いる木で森を再生したい」と語るのは、ボランティアグループ「ツシマヤマネコ応援団」の野田一男さん。昨年秋には2000個ものどんぐりを苗畑に植えました。そのどんぐりも春には何とか無事に芽吹き、「とらやまの森」再生プロジェクトもかたちとなって動き出しました。

今年度から5年間で172ha伐採する予定で、上県町にある御嶽の山1つ分よりも広く、東京ドーム37個分に相当する広さです。市民参加の森づくりで、このうちのほんの少しずつでも再生できれば、ツシマヤマネコをはじめ、対馬のいきものたちが暮らす森を残していくことができるかもしれません。そこでいつも「とらやまの森」を読んでくださっているみなさんにお願ひがあります。「とらやまの森」を再生させるために、家庭でポット1つから始められるどんぐりの苗作りや、その他の活動にご協力いただける方、いらっしやいましたらぜひセンターにご一報ください。みんなで一緒に「とらやまの森」を復活させましょう！

しまもり

～島守を育む～

総合学習への取り組み

昨年度センターでは、たくさんのお子どもたちに対馬の自然や文化についてもっと知って欲しいという想いから、対馬島内3つの小学校と一緒に総合学習での環境教育に取り組んできました。今年度も上県町の佐護小学校・佐須奈小学校と一緒に、対馬の自然と暮らしに触れる学習を進めています。

田んぼと森と、佐護の暮らしと



佐護小学校

6月9日、第2回の総合学習では、学校の裏

にある保護林にでかけ、森の中で「とっておきのおもしろい！」を探しました。各自がおもしろい植物や虫を持って、どこがおもしろいと思ったのかを堂々と発表してくれました。今後は「自然」から「人と自然の関係」へと展開していく予定です。

「鳥の巣箱を作りたい！」 佐須奈小学校

みんなの思いから始まった学習

「シジュウカラの巣箱を作りたいんですけど・・・」子どもたちから電話がかかってきたのは、5月の中頃でした。でも巣箱をかけるにはちょっと遅い時期。そこで、まずは鳥の暮らし、その他のいきものの暮らしを覗いてみようという学習が始まりました。よくよく見れば、佐須奈の町はいきものでいっぱい！

第2回、6月4日の観察は野鳥中心でしたが、次回は佐須奈の海へ進出！どんどん世界は広がります。



求む！ ツシマヤマネコ情報！

以前は対馬全域に生息していたツシマヤマネコですが、その後の開発などによる生息環境の悪化に伴い生息頭数が減少し、1983年に厳原町瀬地区で交通事故個体が発見されて以来、下島での確実な生息情報はありません。一方、上島においても長い間ツシマヤマネコの生息情報は島の中北部地域に限られていました。ところが2002年の12月に美津島町賀谷（がや）地区においてツシマヤマネコが保護されました。美津島町でツシマヤマネコの生息が確認されたのは、実に21年ぶりでした。そしてその後、上島南部地域のツシマヤマネコの生息状況が詳しく調査され、その結果、賀谷地区だけでなく南部の他の地域でもツシマヤマネコが生息していることが確認されました。（下図参照）



2002年12月に賀谷で保護されたヤマネコ
その結果、賀谷地区だけでなく南部の他の地域でもツシマヤマネコが生息していることが確認されました。（下図参照）



上島南部地域 ツシマヤマネコ生息情報マップ



現在のヤマネコ生息
確認地域の南限

★
ヤマネコの生息が
確認された地点

しかし賀谷地区よりも南の地域と下島では、依然ツシマヤマネコの確かな生息情報がありません。今後さらにツシマヤマネコの生息地域を把握していくうえで、皆さんからの目撃情報がとても重要となります。「ツシマヤマネコ、またはツシマヤマネコらしき動物を目撃した」という方がいらっしゃれば、是非センターにご連絡ください。

今まであまり気に留めていなかったけれど、もしかするとあなたのすぐそばにツシマヤマネコは棲んでいるかも知れません。ハイキングや山道をドライブしているときなどに、少し気をつけてみてください。みなさんからの情報を是非お待ちしております。

ヤマネコダイヤル **0920-84-5577** (対馬野生生物保護センター)

大好評!

棹崎公園 お散歩観察会



今年度からセンター主催の「棹崎公園お散歩観察会」が始まりました。お散歩気分ですりずり歩いて、みんなで四季の移ろいを感じるというこのイベント。第3回、6月27日の観察会は総勢5名と少なめでしたが、図鑑片手にみんなで生き物について調べながら歩く、小人数ならではの観察会ができました。参加者の方に、「普段気付いていないだけで、こうやってゆっくり歩いてじっくり見てみると、楽しいことがいっぱいありますね。」との感想をいただきました。

1人では気付かなかった不思議をみんなで観察することで発見したり、その感動をみんなで分かち合えるところが観察会の良いところ。みなさんも1度お散歩観察会に参加してみませんか?今まで知らなかった対馬を発見できるかもしれません。

今後の予定

7月25日

注! 8月29日

9月26日

10月24日

注! 8月の観察会は第5日曜で、磯辺の観察会を行う予定です

■ □ 目指せ! ヤマネコ博士教室 □ ■

センター展示物を使ったヤマネコの形態・特徴の細かな観察や、ツシマヤマネコの調査体験を通じて、子どもたちにツシマヤマネコと対馬の自然について、より深く学んでもらおうというイベントです。3回全ての教室に参加された方には、ツシマヤマネコ博士認定証が授与されます。(対象:小学生以上、保険料100円、参加は要申込)

① ツシマヤマネコ

博士養成教室

8月1日(日) 13時~16時

ヤマネコの剥製を使って、形や模様のクイズなどをしながら詳細まで観察し、最後にその姿を写生します。これで君もヤマネコ博士!
※絵の具・クレヨン・ペン・鉛筆などを各自持参してください

② ヤマネコはどこにいる?

(電波発信機調査体験)

8月28日(土) 13時~15時

ツシマヤマネコの行動範囲や、ヤマネコがどんな環境で暮らしているのかを調べるために行われている、電波発信機を用いた調査の体験教室です。みんなはヤマネコをみつけられるかな?

過去の教室の様子はこちら!

③ ツシマヤマネコ

痕跡探しハイキング

9月18日(土) 13時~17時

長年対馬に住んでいる人でも、滅多に姿を見ることのできないツシマヤマネコ。その生活を、彼らの痕跡、フンから伺い知ることができます。フンが残してくれる情報をどうやって調べ、何がわかるのか、自然観察をしながら、その調査方法を体験します。

<http://www.tsushima-yamaneko.jp> 内、「センターの活動報告」

☆ 休館日 ☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

8月 2、9、16、23、30

9月 6、13、21、27

10月 4、12、18、25

《定期購読について》

「とらやまの森」はセンターのカウンターからご自由にお持ち帰り頂いていますが、定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第26号は2004年10月発行の予定です。

「とらやまの森」の記事を引用される際には、出典が「とらやまの森」であることを明記して下さい。

季刊

とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

ヤマネコを対馬の自然に戻す！ 「ツシマヤマネコ再導入基本構想」発表！



対馬の照葉樹林

10月4日、福岡市動物園生まれのヤマネコ一頭が対馬に里帰りしました(下欄参照)。福岡市動物園での繁殖の目的は、最終的には増やした個体を対馬の自然に戻す(再導入する)ためなのですが、果たしてこの個体はすぐに対馬の自然に戻せるでしょうか？

現在対馬では生息地の減少や、交通事故の発生、イエネコからの感染症の問題等々とヤマネコを取り巻く状況が厳しくなっています。その厳しい状況の中で対馬のことを全く知らない動物園生まれの個体は果たして生き残っていけるのでしょうか？また仮に生き延びたとして、今までいたヤマネコや自然等に悪影響を及ぼさないでしょうか？飼育下で生まれた個体を対馬に戻す時に、どのような点に注意し、どのような事を準備しておかなければいけないのかを整理し実行しなければ、逆に今の対馬の自然を乱してしまうこととなります。

昨年12月から、ツシマヤマネコの専門家、動物園関係者、行政等が話し合い、今年8月、再導入の基本的考え(目的、留意する事項)、実施に必要な事項(右枠)とその体制、飼育下集団づくりについて記述されている「ツシマヤマネコ再導入基本構想」がまとまりました(※)。

今回の再導入は、日本の小型哺乳類で初めてであり、右の項目を見てもわかりますよう、実際に再導入に向けて課題は山積みで、決して容易な道ではありません。また様々な人が協力していかなければ進めない道です。しかしこの道を歩かなければ私たちがめざす「対馬もヤマネコも」の実現は不可能です。シンポジウムでその一歩を踏み出しました。ヤマネコが対馬の野生にいる今しかないこの機会と一緒に活動していきませんか。

◎再導入に必要な事項(項目のみ抜粋)

- ① 再導入施設の整備
- ② 生息環境の改善(地域作りを含む)
- ③ 生態等の解明(飼育下及び野生下)
- ④ 国民及び地域住民の理解
- ⑤ 幅広い関係者の連携・協力体制
- ⑥ 海外事例の調査

※「ツシマヤマネコ再導入基本構想」(A4・5ページ)は、対馬野生生物保護センター、長崎県対馬支庁、対馬市役所及び各支所窓口で入手可能。センターHPにも近日掲載予定。

初めての里帰り



10/12 里帰り予定のNo. 24

福岡市動物園では、現在20頭のヤマネコが飼育されています。今秋、仔猫が親離れをする際にケージが不足するため、5頭が、順次対馬に里帰りすることとなりました。対馬に里帰りした個体は、当面センター内で飼育を行い、現在建設中の一時収容施設が完成(11月末予定)次第、飼育場所を移す予定です。今回の個体は将来野生復帰させる可能性があるため非公開です。

○里帰り個体について

移送日時	個体名	性別	生年月日
10/ 4	No. 17	♀	H15/ 4/ 7
10/12	No. 22	♂	H16/ 3/28
	No. 24	♀	H16/ 4/ 3
日時未定	No. 23	♂	H16/ 4/ 3
	No. 25	♀	H16/ 4/10

ヤマネコも、ペットも、人間も・・・。 野生生物保護とペットの飼い方



上：山中で見かけた野生化したイエネコ。本来は人間に飼われているはずの動物である。

「あ！ツシマヤマネコだ。」夜に上島をドライブしていてヤマネコのような動物が通り過ぎ、よく見ると「なんだ残念、普通のネコだった。」という経験はありませんか？野生のヤマネコを見るチャンスは本当に少ないですよ。でも、ちょっと考えてみてください。私たちが家で飼っているはずのネコがどうして山の中にいるのでしょうか。

今、日本中、いや世界中で人間が飼育管理しているはずの動物が野生化し、多くの野生動物の生息をおびやかしています。例えば、沖縄県のヤンバルに生息するヤンバルクイナは、野生化したネコなどによる捕食で生息数が急激に減少しています。また、奄美大島に生息するアマミノクロウサギは野生化した飼いウサギとの競合（食べ物や棲みかを奪い合うこと）が危惧されています。ツシマヤマネコでは、ネコエイズウイルスに感染したヤマネコが現在まで3頭発見されていますが、このウイルスは野生化したイエネコから感染した可能性が指摘されています。

イヌやネコ、ウサギなどのペットや家畜はもともと人間が飼育するために改良された動物です。本来人間に飼われているべき動物であるペットが野生の中で幸せに暮らしていけるのでしょうか。ペットは本来人間にエサを与えられている動物であるため、野生で生活することは困難です。当然、その寿命も短いと言われています。ペットが捨てられて野生化する事はその動物にとっても不幸な事なのではないでしょうか。

ノラネコは生ゴミをあさったり、庭に糞尿をしたり、床下で仔ネコを産んだり、ご近所の迷惑になる事もあります。人間のためにも、野生動物のためにも、そしてペットたちのためにもペットは室内で飼育することが大切と考えます。万が一、飼っているネコが外に出てしまっても赤ちゃんが出来てしまわないように、避妊去勢手術を受けておくこともお勧めします。



ツシマヤマネコ保護を現場で学ぶ -夏季学生実習報告-

7月26日～8月23日、学生を対象にセンターで実習生を公募しました。熱意ある26名もの応募の中から、前期後期各5名ずつ、計10名が参加。教科書やテレビの中ではない、実際に現場で行われている野生生物保護を肌で感じとってもらいました。



← 後期実習生

◆実習生からの声

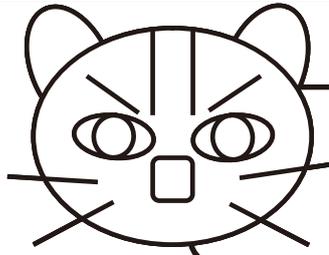
「今回の実習は、現場においての「保護」という意味を深く考えるきっかけになりました。生物を危険から守り、数を増やしていくというだけではなく、環境・気持ち・生活など周りにある様々な問題を含めて解決していくことの重要性を、少しではありますが実感できました。」

→ 前期実習生



新しい顔 川口誠（ヤマネコ飼育担当）

このたび10月1日から主にツシマヤマネコの飼育担当としてセンターに勤務することになりました、川口誠です。実は、縁あってセンターに勤務するのは2回目となりますが、前回お世話になった皆様、これからお世話になる皆様どうぞよろしく願いいたします。失礼ながら、この場をお借りして挨拶とさせていただきます。



STOP! 交通事故!



交通事故発生地点

左の地図は1992年～現在までの、ツシマヤマネコの交通事故発生地点を表したものです。これまでに確認されているだけでも30件の交通事故が発生しており、そのうちの26件は死亡事故でした。

これからの季節、今年生まれたヤマネコが親離れをする時期にあたります。車に接する経験の少ない若い個体が新天地を求めて移動をおこなうため、道路を横断する機会が多くなります。夜間の車の運転には十分に気をつけて、ゆっくり走行してください。

ヤマネコの発見・目撃情報はセンターまで・・・

ヤマネコダイヤル

0920-84-5577



この標識のある地域では
特にご注意ください。
ゆっくり走ればヤマネコに
会えるかも?!

秋のツシマヤマネコ交通事故防止キャンペーン

今年も、秋の交通事故防止キャンペーンでは地元警察署、交通安全協会等と協力しながらツシマヤマネコの事故防止を呼びかけました。島内5ヶ所で行われたキャンペーンではツシマヤマネコのつばきちゃんが登場し、ドライバーに交通事故防止を呼びかけました。恒例となったこのキャンペーンですが、みなさんのためにも、動物たちのためにも安全運転を心がけたいですね。



「対馬もヤマネコも」共生できる社会を目指して

8月22日（日）美津島町でツシマヤマネコと地域の活性化を考える市民シンポジウムが開かれました。当日は用意してあった300席が全て埋まるほどの盛況ぶり、市民の関心の高さがうかがえました。

市民を交えてのディスカッションでは「ツシマヤマネコと地域の活性化」をテーマに活発な意見交換がなされ、締め括りには地元の大船越小学校5年生のみなさんからのメッセージが発表されました。希望あふれる歌と言葉はみんなの心に深く刻まれるものでした。

このシンポジウムは「本当の意味で人とヤマネコが共生できる社会」をみんなで創るための大きな一歩と成り得たでしょうか。その答えはこれから少しずつかたちとなって現れるはずです。



大船越小学校5年生のみなさん
「ツシマヤマネコとみんなの住む対馬。対馬の自然を守るために、私たちにもできることがある！」

棹崎公園自然情報

秋といえば実りの秋！

センター前から始まる遊歩道で拾えるどんぐりを紹介します。

コナラ

一般的によく見られるどんぐりで、幹はシイタケの原木として使われます。他のどんぐりとは特徴的なギザギザの葉っぱで見分けがつかず。



スダジイ

棹崎の遊歩道で最もよく見られるどんぐりで、シイの実の愛称で親しまれています。



10月24日のお散歩観察会はどんぐり拾いハイキング
秋を集めに出かけませんか？
今後のお散歩予定 11月28日・12月26日・1月25日

イベント案内

ツシマヤマネコ
応援団

市民参加の森づくり開催！

ヤマネコの暮らす対馬の山の中を実際に見て歩き、森と人とヤマネコのつながりを考える森づくりイベントを開催します。森づくりから山や海、地域を豊かにする活動を一緒に始めませんか？ヤマネコと共に暮らす、明るく楽しい対馬の将来をみんなで考えましょう！

◆◆◆◆◆イベント内容◆◆◆◆◆

- ・対馬の山林見学 ーお山の自然観察ー
- ・森づくり ーどんぐり植え・苗植え作業ー
- 他、とらやまの森再生プロジェクトについて

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

2004年 11月 1、8、15、22、29
12月 6、13、20、27、29(午後)～31
2005年 1月 1～3、11、17、24

日時：11月7日（日）

9:00～16:00（9:00集合）

集合場所：上県町 仁田出張所

参加費：100円（保険料）

※要申込・小雨決行

◎長靴・弁当をご持参ください

※「ツシマヤマネコ応援団」とは、対馬が大好きな地域住民によるボランティアグループです。

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第27号は2005年1月発行の予定です。

季 刊 とらやまの森

発行 対馬野生生物保護センター

URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1605

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

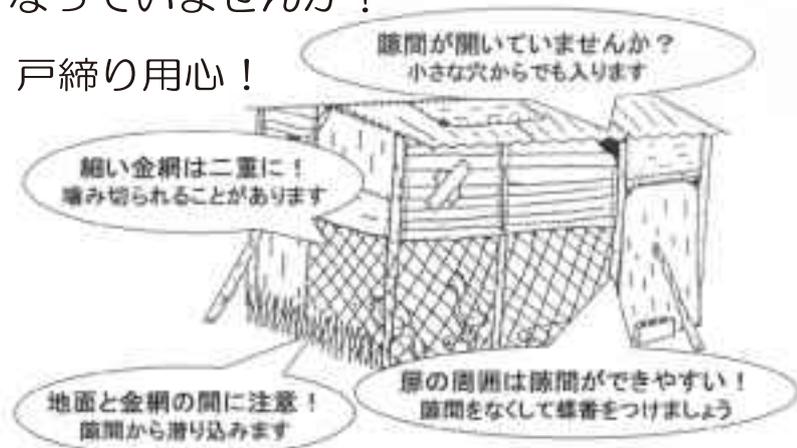
ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

あなたの鶏小屋を動物から守ろう！

小屋の裏が「けもの道」になっていませんか？

戸締り用心！



とらばさみはかけないで！

鶏小屋の被害は、とらばさみをかけることでは無くなりません。最も大切なのは動物に侵入のチャンスを与えないことです。あなたの小屋には絶対に入ることができないと動物が学習すれば、狙われることも減ってきます。古くなって破れたところはまめに補修し、戸締りを忘れずにしましょう。また、山際の動物が近づきやすい場所に鶏小屋を建てないことも被害を防ぐ工夫です。

冬は動物が鶏小屋に侵入することが増えます。昨年11月にも上県町佐護で、鶏小屋にヤマネコが入ったとの連絡を受け、センターに2頭のヤマネコを保護收容しました。それ以外にも、どの動物によるものかは分かりませんが、鶏が襲われたという情報がいくつか寄せられています。寒くなるにつれて、ネズミなどのヤマネコの餌になる小動物が減少します。小屋の中にいる鶏はヤマネコ、テン、ノラネコにはとても魅力的で、人間に見つかる危険があっても、チャンスがあれば他の餌との区別無く襲ってしまいます。

【10～12月 ヤマネコ保護・交通事故一覧】

・交通事故2件 ・保護5件（うち1件は死亡）

昨年の11月から12月にかけて、ヤマネコの保護と事故が相次ぎました。この冬はヤマネコにとって厳しいものになりました。



棕梨で発見された交通事故死したヤマネコ

日時	年齢	性別	体重(g)	場所	詳細
11/3	成獣	♂	4,400	上県町友谷	鶏小屋に侵入し保護される
11/6	亜成獣	♀	1,440	峰町佐賀	交通事故に遭い死亡しているのを発見
11/18	亜成獣	♀	1,720	上県町棕梨	交通事故に遭い死亡しているのを発見
11/22	成獣	♂	2,960	上県町湊	鶏小屋に侵入し保護される→12/13に野生復帰
11/28	亜成獣	♂	1,810	上県町越高	トラバサミに掛かり保護される→12/12に死亡
12/6	亜成獣	♂	1,440	上対馬町比田勝	水産加工場周辺で弱っているところを保護
12/12	成獣	♂	4,890	上県町棹崎公園	センター内に侵入して保護 →12/19に野生復帰

ツシマヤマネコ一時収容施設って？

昨年12月末にツシマヤマネコ一時収容施設が完成しました。でもこの施設って何のためのものなのでしょう？

それを理解するにはツシマヤマネコが今置かれている現状を考えなければなりません。野生のツシマヤマネコは非常に少なくなってきており、近い将来何かのきっかけで一気に絶滅してもおかしくありません。それを避けるためには、十分な数のツシマヤマネコを飼育下で確保しておかなければなりません(再導入基本構想では遺伝的にも配慮して100頭程度がよいのではとしています)。現在飼育下に20頭おりますが全然足りず、まだまだ増やさないといけないということなのです。そして当然ヤマネコを収容する施設も用意する必要があります。

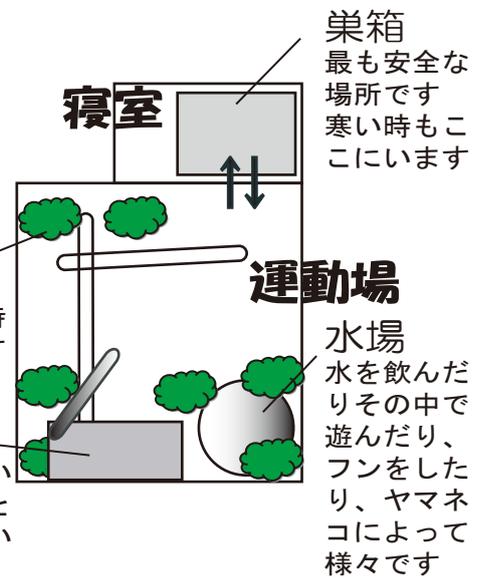
今回は、まだ繁殖に参加しないヤマネコ達を“一時”的に収容するためにこの施設を作りました。彼らは繁殖や再導入などのヤマネコ達の将来のために活躍する日を待ちながら、しばらくそこに住みます。繁殖のために島を出ることもありますが、それは対馬のヤマネコ達の将来のために外で活躍するということなのです。そんなヤマネコ達と施設を温かく見守ってください。

おねがい

施設にはヤマネコが住んでいます。彼らが将来再導入や繁殖の役割をしっかり果たすためには、できる限り人の目に触れないことが大事です。そのため施設は非公開とさせていただきます。ご協力お願い致します。



一時収容施設には12部屋あり、1部屋のスペースは約9㎡。寝室と運動場に別れており、運動場には植木、水場、遊び用の丸太などがあります。また部屋の高さが3mあり、渡し木を使って高い所にある登り台に登れるようになっています。今は1頭で2部屋と広めに使っています。



◎里帰りしたヤマネコ情報◎

福岡市動物園で生まれ、この秋冬に対馬へ里帰りしたヤマネコたちを紹介します。

昨年10月4日に初めて対馬の地を踏んだのはNo. 17♀です。新聞やテレビでも大々的に取り上げられて、今回帰ってきた6頭の中では一番有名になりました。2003年4月7日生まれで、身体は小粒ですが、すぐにこちらの環境にもなれました。

次いで、10月12日にNo. 22♂とNo. 24♀の2頭がやってきました。No. 22は、2004年3月28日生まれで

性格はかなりの荒坊です。No. 24は2004年4月3日生まれで、非常に繊細な性格で、私自身よく悩まされています。次に、12月23日にNo. 23♂が来島しました。先に帰ってきたNo. 24とは兄妹(姉弟?)ですが、餌もむしゃむしゃ食べて性格も大らか(身体も大きい)です。

最後に、2005年1月17日にNo. 12♂とNo. 25♀が帰ってきました。No. 12は、2002年4月9日生まれ、No. 25は、2004年4月10日生まれです。2頭とも臆病ですが、これから徐々に対馬の環境にも慣れていってくれると思います。

顔も性格もみんなまったく違うヤマネコたちですが、今のところ対馬を満喫しているのではないのでしょうか？

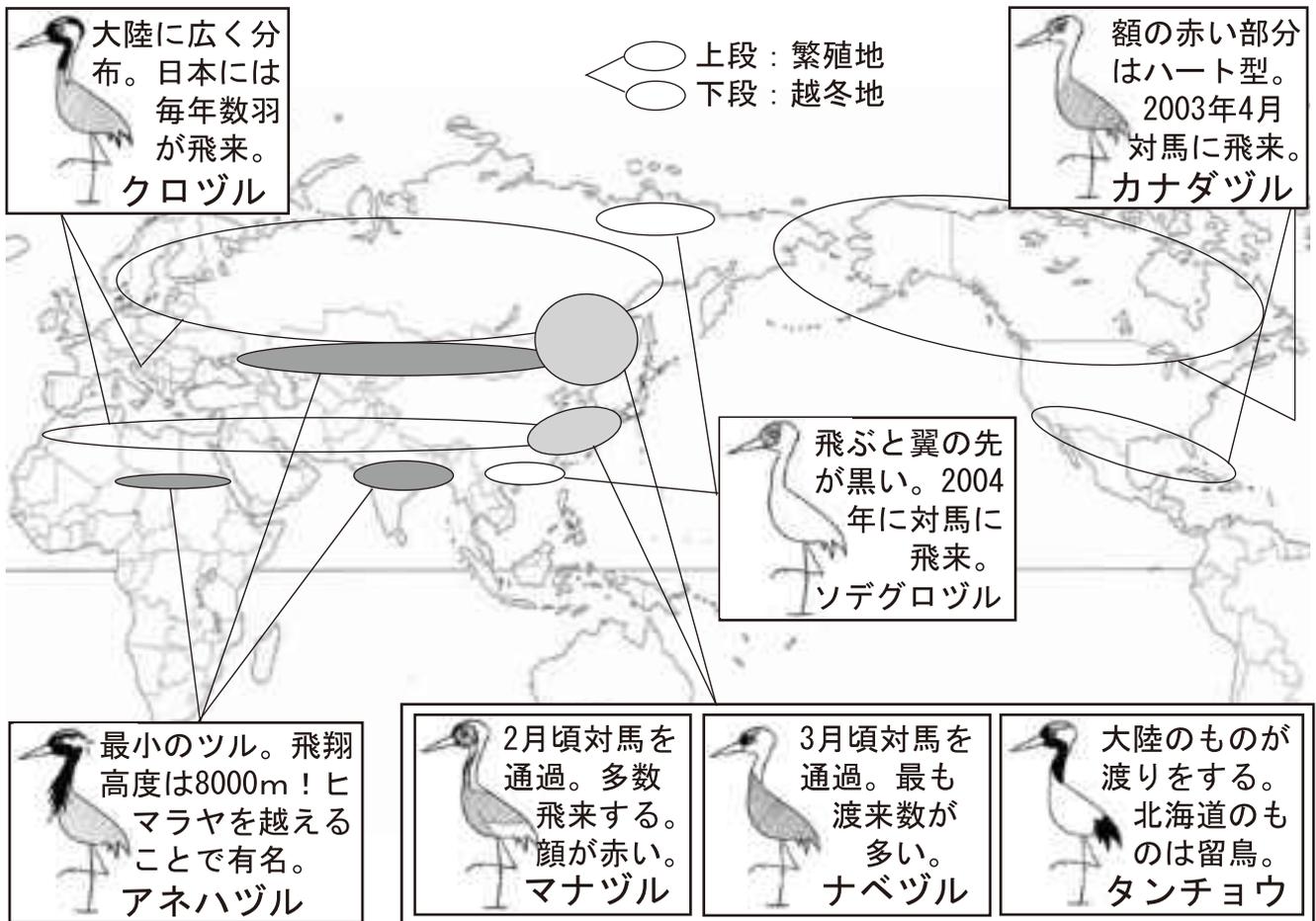
今年の干支を見に行こう！

2005年 (酉)

対馬 鶴 つる ウォッチング !!

日本を代表する有名な鳥の一つに、鶴（ツル）があります。おめでたい席で登場する機会の多いツルですが、日本では7種類のツルを見ることができます。これらのツルたちは世界各地に分布域を持ちます。みな渡りの途中に対馬に寄ったり、あるいは迷鳥として対馬に渡来したりするので、運がよければ、対馬で全7種類を見ることができるかもしれません。渡りのルートとして対馬を通過するツルは、鹿児島県出水（いずみ）平野でそのほとんどが越冬します。今年の出水には、37年ぶりにタンチョウが訪れたそうで、出水だけで七福神（7種類のツル）が拝めるのではないかと話題になっているそうです。出水で越冬したツルたちは初春に対馬を通過して北の繁殖地へ向かうので、対馬でも七福神が拝めるかもしれません。今年酉年、2月～4月の渡来シーズンに、縁起を担いでツルを見にいきませんか！

対馬を訪れる世界のツルの分布



●見られる場所

- ・水田地帯：上県町佐護平野、田ノ浜など

●見られる季節

- ・マナヅル：2月上旬～3月中旬
- ・ナベヅル：3月中旬～4月上旬

●ウォッチング日和

- ・風の強い日
- ・急な天候の変化があった翌朝（ツルが対馬に避難してきます）

★ツルを観察する時の注意★

- ◎近寄り過ぎたり大きな音を出したりしてツルを驚かせないように気をつけましょう。
- ◎水田などの農耕地は私有地です。無断で立ち入らないようにしましょう。

市民参加の森づくり

みんなの「とらやまの森」づくり報告

11月7日(日)、上県町目保呂地区周辺で、約60名の市民参加のもと、森づくりが行われました。

前半は上対馬町舟志から山奥へ入り、御嶽原生林周辺の国有林を見学しました。少しずつ回復してきている伐採跡地の前で、林野庁の方から森の役割について、地元の漁師さんから海で起こっている磯焼け問題についてお話いただきました。その後、大きな木が残る尾根上をみんなで歩いて対馬の生き物を観察し、対馬の森を感じました。

後半は上県町目保呂ダム周辺にて、伐採後20年経ち、周囲の木と変わらないくらいまで回復した雑木林や、「人も



ヤマネコモ」利用できる植林地にするために間伐をした試験林などを見学しました。

最後に、目保呂ダム下流に用意したどんぐり畑に、対馬での森づくりを応援していただいている「(社)北九州緑化協会」の方にご協力いただき、約1600個のアカガシ、スダジイ、マテバシイなどのどんぐりと、アベマキの苗を植えました。春から初夏にかけての芽吹きが楽しみです。

今回の森づくりを中心となって行ったセンターのボランティアグループ「ツシマヤマネコ応援団」より次のメッセージをいただきました。「自分の手で苗木を作り、対馬の森を守っていきませんか。自分の子どもや孫たちに、美しい対馬の自然を残せるように一緒に頑張りましょう。」



イベント案内 棹崎公園 お散歩観察会

寒い冬、コタツでぬくぬくしていたい季節ですが、外へ出てお散歩しませんか？棹崎周辺はツバキの花が咲き、蜜を吸いにメジロやヒヨドリが集まっています。美しいさえずりはまだ聞こえてきませんが、何種類かの小鳥が集まってできる混群に出会えるのが冬の観察会の面白いところ。寒さも吹き飛ばすような賑やかな小鳥たちが間近で観察できるかもしれません。

3月にはナンザンスミレをはじめとする初春の草花も楽しめます。お気軽にご参加ください。

◎お散歩観察会日程◎

1月23日 2月27日 3月27日

13:00~14:30 雨天中止・参加費100円

10月のお散歩観察会

みんなでシイの実を拾ったのですが、あまり落ちていませんでした。

「台風の影響？」
遊歩道にはイノシシの痕跡がたくさんありました。去年はイノシシに



よる農作物被害が対馬全土で多発したようです。どんぐりが実っていないことと関係があるのかもしれません。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

2月 7日、14日、21日、28日

3月 7日、14日、22日、28日

4月 4日、11日、18日、25日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからでもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第28号は2005年4月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター
 URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

保護件数増加、ヤマネコに危機!?



4月26日に無事に生息地に帰ったヤマネコ
追跡調査用の発信機を取り付けた

今年の冬はツシマヤマネコにとって厳しい冬となりました。平成16年度の保護9件、死体発見5件は過去最高記録です。その要因としては、ヤマネコセンターが地域の方々に認知され、ヤマネコ情報を提供して頂けるようになったことがまずは挙げられます。

しかしそれだけではなく、野生のツシマヤマネコが暮らす環境が、一層厳しくなっていることが保護増加の原因かもしれません。

今冬の特徴は、ワナによる捕獲が多かったことです。箱ワナで捕獲された場合は怪我もなく、元

気に野生復帰する可能性が高いのですが、トラバサミで捕獲され怪我をした場合には、一見大丈夫そうでも死亡してしまったり、野生に帰ることができなくなったりすることもあります。地域の方の優しさで、トラバサミの使用自粛をお願いします。

保護收容 (1月~4月)

收容日	性別	年齢	体重(g)	保護原因・その後
2月4日	オス	成獣	3,750g	トラバサミによる怪我・保護中
2月17日	メス	亜成獣	1,410g	箱ワナによる錯誤捕獲・保護中
3月7日	メス	成獣	1,900g	衰弱・翌8日死亡
4月5日	オス	亜成獣	2,100g	箱ワナによる錯誤捕獲・4月26日野生復帰

死体收容 (1月~4月)

收容日	性別	年齢	体重(g)	原因・その他
2月12日	不明	成獣	(1,200g)	不明・かなり古い状態
4月29日	オス	成獣	(1,600g)	交通事故・内臓、筋肉が動物に食べられていた

情報提供のお願い

ツシマヤマネコを
 ◎目撃した、
 ◎保護した、
 ◎死体を発見したら
 ヤマネコセンター
0920-84-5577まで!



ヤマネコの仔ネコ誕生!

今年も福岡市動物園でツシマヤマネコの赤ちゃんが誕生しました。5頭の誕生で飼育下繁殖個体群は合計25頭になりました。元気にすくすくと育っています。

誕生月日	頭数	オス親	メス親
4月17日	2頭	No.1	No.9
4月24日	2頭	No.3	No.13
5月4日	1頭	No.3	No.8

「つしまる」公開で来館者 1.8倍 に!



一般公開中の「つしまる」
今は夏毛で少し涼しそうです。

ツシマヤマネコの「つしまる」をセンターで公開して早1年5ヶ月。「つしまる」の公開前(2002/12~2003/11)と公開後(2003/12~2004/11)の各1年間の来館者数についてまとめました(下表)。

公開後は、来館者数が前年比1.8倍と大きく伸びました。特に島内からの来館者が著しく増加しました。「対馬にはツシマヤマネコがいると聞いていたけど、初めて見た」とおっしゃる方が多かったようです。表からもヤマネコを見る機会の少ない旧下県郡からより多く来られるようになったのがわかります。「つしまる」に会うために何度もセンターに来られる方も増えたようです。

	来館者数	島内			島外
		旧上県郡	旧下県郡	計	
公開前	10,399	1,937	1,922	3,859	6,650
公開後	19,068	4,288	4,930	9,218	9,850
比率(後/前)	1.8	2.2	2.6	2.4	1.5

センターでは、鳥の羽根の標本の展示コーナーや、自然の材料で対馬の生き物を作るヤマネコ工房を新たに開設しました。またゴールデンウィーク中には、野鳥を見た人が情報を交換できる野鳥掲示板を設けました。皆さんが何度来ても楽しめるセンターにしたいと思い、少しずつ展示にも工夫をこらしています。毎日様々な表情を見せてくれる「つしまる」や、新しい展示を見学するために、センターをまた訪れてみませんか?

もうすぐ 10万人!!

10万人目には
記念品進呈

対馬野生生物保護センターは1997年8月にオープンしました。5月10日現在、通算来館者数が9万8千人で、あと少しで10万人になります。5万人達成はオープンして4年4ヶ月だったのですが、そのペースより約1年早く、6月中に到達しそうです。みなさんもこの記念すべき日が早く来るようセンターを訪れてみませんか?

もしかしたらあなたが記念すべき10万人目の来館者かもしれません。

オウゴンオニユリ保全計画~自生地復活を願って~



写真提供: 國分 英俊 氏

7月の対馬、道路沿いにはオレンジ色の美しいオニユリが咲き誇ります。対馬には他の地域には無い特徴あるオニユリが自生しますが、中でも黄金色の花をつける『オウゴンオニユリ』は世界でも対馬にしか存在しません。このオウゴンオニユリの自生地は環境変化の影響を受け、保護が必要な状況にあります。オウゴンオニユリを保護するため、大阪府立桜塚高等学校の西谷 信一郎先生が対馬の植物愛好家の方々とともに始めた「オウゴンオニユリ保全プロジェクト」についてセンターに中間報告をいただきました。

この計画では種子から育てるそうですが、種子から育てると株が大きくなって開花するまでに少なくとも3年間は必要です。単純に計算しても成長したオニユリを自生地に返すためには6年またはそれ以上かかる、息の長い根気の要る仕事です。長期にわたる保全活動を始め、継続し、そして成功するためには、地元の方の協力・支援が必要です。この活動について詳しくは『対馬植物図鑑』ホームページに掲載されています。また、センター館内の掲示板でもこの活動を紹介していますのでぜひご覧ください。

対馬植物図鑑HPに掲載中 <http://marugoto.cool.ne.jp/>

GW つしま渡り鳥情報マップ

2005年4月中旬～5月上旬に観察された野鳥を紹介します。有名な上県町佐護・志多留・田の浜の他、巖原町の内院・浅藻でも春の渡りバードウォッチングが楽しめます。

きご したる
佐護・志多留・田の浜



コチドリ



オウチュウ



ツバメチドリ



アカガシラサギ



キマユホオジロ



コアオアシシギ



チュウサギ



ムクドリ



ムネアカタヒバリ



タカブシギ



オグロシギ



ホオジロハクセキレイ

ないん あざも
内院・浅藻



今年はヤマショウビンの
当たり年（よく見られる
年）となりました。5月に
入ってからは連日観察さ
れ、遠方からヤマショウビ
ンを見に来たバードウォッ
チャーたちも大満足のGW
だったようです。

観察された月日と場所

- 5月1日 佐護
- 5月2日 佐護・加志
- 5月3日 佐護(2羽)・加志・志多留
- 5月4日 佐護・加志・志多留・仁田
- 5月5日 佐護
- 5月6日 佐護
- 5月7日 佐護・佐須奈



地域の動物問題を考える「どうぶつ懇談会」^{こんだんかい}

2月25日(金)に佐護住民センターで「どうぶつ懇談会」が行われました。イノシシによる農作物被害、ノラネコによる生活環境の悪化など、動物に関する地域の問題を考える話し合いの場に、地元の方や行政職員など約50名が参加しました。

イノシシに困っているという農家からの訴えには、獣害対策の専門家から、「今ならまだ間に合います。山の10頭より里の1頭への対策を。」とのアドバイスがありました。ノラネコについては、獣医師の先生方から「望まれずに生まれてくる不幸な仔ネコをこれ以上つくりたくないためにも、避妊去勢手術や屋内飼い等適正飼養の普及が必要」とお話がありました。

翌26日(土)、27日(日)は、イエネコの避妊去勢キャンペーンが佐須奈の対馬動物診療所で行われました。申し込みのあった方のネコには避妊去勢とマイクロチップ登録、病気の検査、ワクチン接種が施されました。マイクロチップ登録をすることには、飼いネコとノラネコ



懇談会のはじめに、佐護小学校の総合学習のまとめとして「みんなが暮らす将来の佐護 未来予想図発表会」を開催しました

の区別が付き、飼いネコが迷子になっても発見されて帰って来ることができるなどの効果があります。

これらは獣医師会や行政、NPO団体などが協働で行う、対馬のノラネコをゼロにする取組みの一環です。ノラネコ自身が飢えや病気に苦しまず、人間もノラネコにゴミを荒されたりすることがない地域を作ることを目指します。それはひいてはヤマネコにとっても、病気をうつされたり食べ物や生息地を奪い合うことのない、本来の生息環境を取り戻すことにもつながります。まずはネコの話を通じて、人と動物のこれからについて一緒に考えるために、あなたの地区でも懇談会を開催しませんか？

イベント案内 棹崎公園 お散歩観察会

◎5月22日(日) 9:30~11:00 (長靴持参)

「沢沿いを歩く、森の自然観察」
沢沿いを歩き、水辺の生き物を観察します。

◎6月26日(日) 13:00~14:30

「身近な昆虫さがし」
棹崎公園で見られる昆虫を探します。

◎7月24日(日) 19:30~21:00

「夜の生き物観察会」
光に集まる虫を中心に、夜の世界を紹介します。

※各回とも申し込み不要 参加費100円 雨天中止
開始15分前からセンター窓口で受付します。



4月のお散歩観察会

4月のお散歩は「春のバードウォッチング!」。韓国へ渡る直前に棹崎の半島に集合したヒヨドリの大群を観察しました。これから50Kmもの海上の旅を、彼らは無事終えることができるのでしょうか?

途中、ヒヨドリの群れを狙ってハヤブサやハイタカが狩りをする姿も見ることができました。



ヒヨドリの大群

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

5月 9日、16日、23日、30日

6月 6日、13日、20日、27日

7月 4日、11日、19日、25日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからのご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第29号は2005年7月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター

URL

<http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

人もペットもヤマネコも幸せな対馬のために

ネコ無料健康診断キャンペーン

主催：対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会



佐須奈での避妊手術の様子

今、対馬の貴重な野生動物であるツシマヤマネコの生息数が減少しています。その原因のひとつとして、ノラネコとのえさの競合、そしてネコから病気が移されることなどが考えられます。また、ノラネコが原因で地域で、糞尿被害など近隣トラブルも発生しています。

「ノラネコ問題解決はまずは飼われているネコの適正飼育から」をモットーに、今年2月に対馬市、長崎県、環境省、獣医師会、NPO、および市民代表が参加し、対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会が設立されました。協議会では人とペットが幸せに暮らし、野生動物と共存する社会を目指して、対馬地区でのイエネコの個体登録、室内飼育、避妊去勢手術、ワクチン接種などを無

料で実施しています。お申し込み、お問い合わせは対馬市各支所総務課までどうぞ。

- ★ 上県町佐須奈での開催日：8月21日 / 9月18日 / 10月16日 / 11月20日 / 12月18日 / 1月22日 / 2月19日 / 3月19日（前週月曜日申込締切）
- ★ 美津島町・巖原町の指定動物病院ではご希望の日時で同じ内容の健康診断が受けられます。支所でお申し込みの際に美津島雞知・巖原小浦のどちらかの会場を指定してください。注意：ノラネコについては基本的に対象外です。

● キャンペーンの内容 ●

獣医さんによる検診と、①～⑤が無料で受けられます。

- ① 個体識別のためのマイクロチップ（※）の挿入
- ② 避妊去勢手術
- ③ ウイルス感染検査
- ④ ワクチン接種（5種混合不活化ワクチン）
- ⑤ 寄生虫検査



マイクロチップ挿入の様子

※マイクロチップは、皮下に埋め込む名札のようなものです。迷子になっても、首輪が外れても、これが入っていれば飼い主がわかります。ネコの健康に影響はありません。

対馬地区ネコ適正飼養推進連絡協議会は、対馬市民による「人間とペットと野生動物が共存できる地域社会を目指した条例」の制定を目指しています。

祝・来館10万人!



「10万人目の笑顔」井川さんご一家

平成17年6月26日(日)にセンターの来館者数が10万人に達しました。平成9年8月1日に開館してから約7年11ヶ月での達成です。

記念すべき10万人目の来館者は、対馬市上対馬町在住の井川吉徳(38)さんご一家でした。

「今日は、センター主催の自然観察会に参加しようと思って来ました。センターには時々遊びに来ていましたが、10万人目にはとにかくビックリです。次は15万人目も目指します」とうれしそうに話す井川さんご一家。10万人目を記念して、賞状と記念品が贈られました。

センターでは、みなさんが何度来ても満足してもらえるよう、展示を工夫したり、楽しいイベントを企画していきたいと思っています。

やまねこニュース

— 再び、野生へ! —

今年の2月3日に上県町瀬田でトラバサミにより錯誤捕獲されたオスのヤマネコが、センターでのケガの治療を終え、5月16日に再び野生に帰ることができました。トラバサミにかかったヤマネコが野生に復帰できることは、非常に稀です。その後の追跡調査でも元気に生活しているのが確認されています。

— 残念・・・ —

福岡市動物園で今年生まれた5頭の仔ネコのうちの3頭が、6月13日～14日にかけて相次いで死亡しているのが発見されされました。いずれも、母ネコから咬まれたことが死亡の原因であると判断されました。しかし、なぜ母ネコが仔ネコを咬んだのかについては現在調査中です。



野生復帰したツシマヤマネコ

新人紹介

自然保護官補佐(アクティブ・レンジャー)として、6月から新たに2名の仲間がセンターに加わりました。新人からのメッセージです。

松原ゆき(自然保護官補佐・飼育担当・獣医師)

学生の頃から、いつか対馬で暮らし、ツシマヤマネコに関わる仕事がしたいと思っていましたが、こんなに早く夢が叶うとは思っていませんでした。センターでは飼育を担当していますが、毎日ヤマネコと接していると、様々な発見があつてとても楽しいです。私はできるだけ長く対馬にいたいと思っています。みなさんとは直接接する機会は少ないと思いますが、どうぞよろしくお願ひします。

🌸プロフィール：千葉県市川市出身

前田 剛(自然保護官補佐・地域との共生担当)

毎日忙しくも、自分が心の底から守りたいもの(対馬の自然・ツシマヤマネコ・文化)があるということに幸せを感じながら仕事をしております。

私は、対馬の自然を、そしてヤマネコを守っていけるのはやはり対馬の地域の方々だと思っています。みなさんが主役になって取り組めるよう、一緒に頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

🌸プロフィール：長崎県国見町出身

6月から、センターは職員9名の新体制で頑張っています。よろしくお願ひします。

改めて学ぼう！ツシマヤマネコとは？

対馬に長年住んでいても、まだツシマヤマネコを見たことがない人は大勢いるのではないのでしょうか？対馬のシンボルともいえるツシマヤマネコ。彼らの生態、現在直面している問題をもう一度振り返ってみましょう。

◆ ツシマヤマネコの特徴 ◆



①



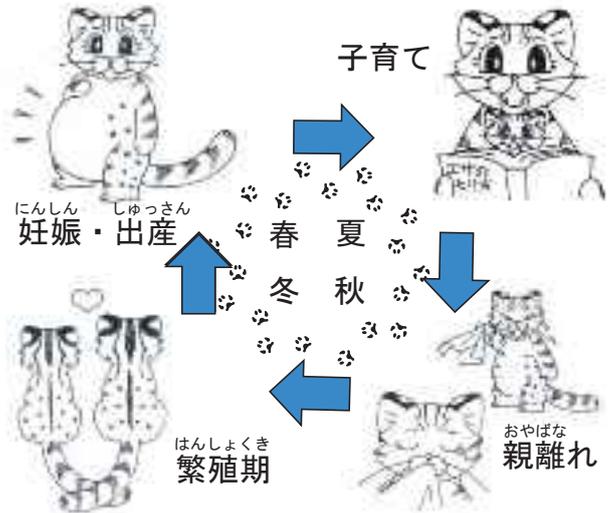
②



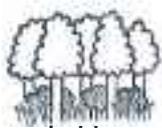
③

- ① 額の縦じま ひたい
- ② 耳の後ろの白い斑点 はんでん
- ③ 太くて長い尾 はんでん
はっきりしない斑点

◆ ツシマヤマネコの一年 ◆



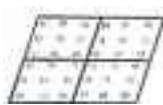
◆ 住んでいるところ ◆



森林



川辺



田畑



小型ほ乳類



鳥類



両生・は虫類



昆虫類

◆ 食べているもの ◆

ツシマヤマネコに せまる危機

絶滅の危機に瀕しているツシマヤマネコは、現在さらに数を減らしています。その原因として次のようなものが挙げられます。



生息地の減少



交通事故



トラバサミ



犬にかまれる



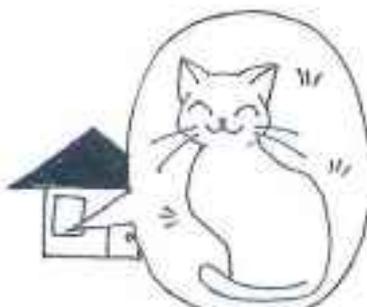
イエネコからの病気

ヤマネコからの おねがい

対馬にしかないツシマヤマネコ・・・。人もヤマネコも幸せに暮らせる対馬を築くために、身近にできることから始めませんか。



犬はつないでおいて！



ネコは屋内で飼って！



トラバサミはやめて！

ツシマヤマネコ展開催

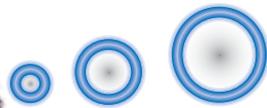


一昨年のツシマヤマネコ展の様子

夏～秋にかけて、対馬各地で「ツシマヤマネコ展」を開催します。ツシマヤマネコの特徴や絶滅の危機に瀕している現状をわかりやすく説明した展示パネルの他、ヤマネコの鳴き声が聞けるコーナーや、ヤマネコがどんなものを食べているかがわかる糞分析コーナーなど、楽しい展示が盛りだくさんです。本物そっくりのツシマヤマネコのぬいぐるみも展示していますので、ぜひ遊びに来てください。夏休みの自由研究にもぴったりです！



みんなで遊びにきてね！



会場

上対馬総合センター
峰地区公民館
佐須地区公民館
対馬市巖原支所
美津島地区公民館
豆酏地区公民館

日程

7月28日～8月9日
8月11日～8月23日
8月25日～9月6日
9月7日～9月21日
9月22日～10月4日
10月6日～10月18日

イベント情報

7月のお散歩報告～夜の生き物観察会～

7月24日は棹崎公園で夜の生き物を観察しました。クワガタなどの昆虫を探しに、親子を中心とした27名もの参加がありました。

樹液に集まるクワガタ・カナブン、外灯に集まるカミキリ・ガなどの昆虫の他、これらの昆虫を食べるコウモリの仲間も観察することができました。

子どもたちが虫を見つけ捕まえ、それをみんなで観察する、子どもが主役の楽しい観察会となりました。未来の昆虫博士がこの中から生まれるかも？



夏～秋の観察会

8月28日(日) 13:00～14:30 「夏休み工作」
9月25日(日) 18:00～19:30 「虫の音を聞く会」
10月23日(日) 13:00～14:30 「どんぐり拾いハイキング」

※センター入口で15分前から参加を受付けます。

9月・10月は雨天中止、8月は雨天の場合室内活動のみ。

各イベントとも保険料として参加費100円いただきます。



バナナトラップにやってきたカナブン

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

8月 8日、15日、22日、29日

9月 5日、12日、20日、26日

10月 3日、11日、17日、24日、31日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。

第30号は2005年10月発行の予定です。

季 とらやまの森

刊 発行 対馬野生生物保護センター
 URL <http://www.tsushima-yamaneko.jp/>

連絡先

〒817-1603

長崎県対馬市上県町棹崎公園
対馬野生生物保護センター

電話 : 0920-84-5577

ファックス : 0920-84-5578

E-mail : twcc97@yahoo.co.jp

ヤマネコ減少傾向深刻 下島では生息確認出来ず — 最新の生息調査結果発表 —

ツシマヤマネコの8年ぶりの生息状況調査(2002~2004年度)の結果がまとまりました。調査結果のポイントは以下の通りです。(3面に関連記事)

～ 調査結果のポイント ～

- ①最新(2000年代前半)の推定生息数は約80~110頭
- ②1980年代以降、生息数が減少傾向
- ③上島ではほぼ全域に分布。ただし生息密度に差があり、上県町・上対馬町で比較的高く、南にいくほど密度が低い
- ④下島では今回は確実な生息情報が得られず、絶滅の可能性あり

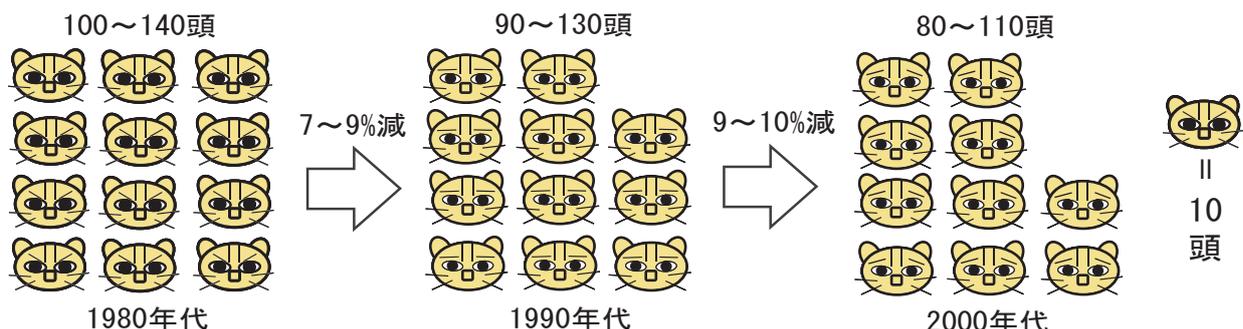


交通事故で死亡するヤマネコも
後を絶ちません

今回の調査により、ヤマネコが依然として危機的な状況にあることが明らかになり、より一層保護に力を入れなければいけないことがわかりました。ヤマネコは対馬の生態系の頂点に位置し、かつ人と比較的近いところで生活してきた動物です。そのヤマネコが減少しているということは、対馬の自然の質や量が低下しているということを意味します。皆さんの周りでも、ヤマネコだけでなく、昔はたくさんいたのに今ではほとんど見かけなくなった生き物も多くいるはずです。ヤマネコをはじめとする対馬の生き物が、これから先も対馬の人々と一緒に暮らしていけるようにするには、専門家や行政だけでなく、今対馬に住んでいるひとりひとりができることから始めることが大切です。あなたにもできることがきっとあります。

個体数と生息地域の減少・・・

過去2回の生息調査に関して、推定生息数は1980年代が100~140頭、1990年代は90~130頭と見直され、今回は80~110頭と推定され、1990年代から更に9~10%の減少となりました。また1990年代の調査ではヤマネコの生息が確認されていた下島では、ヤマネコの可能性のあるフンが見つかったものの、古くて識別することができず、残念ながら確実なツシマヤマネコの生息情報を得ることができませんでした。



「対馬もヤマネコもー沖縄・奄美・対馬のすばらしい自然とその危機」

11月23日(水) 市民シンポジウム第2弾開催!

最近、外国産のヘビやサソリが野外で発見されたというニュースをよく耳にします。そういった、本来生息していない地域に持ち込まれた動物や植物を「外来生物」といいます。外来生物の中には、人命や農作物、生態系などに重大な影響を与えるものも含まれています。ひとたび外来生物による影響を受けると、対策には多くの時間と労力・費用がかかります。

対馬での影響を防ぐためにも、今年のシンポジウムでは、この「外来生物」に着目します。実際に問題が起きている沖縄（西表島、やんばる）、奄美そして対馬で、その解決に取り組む方々から、外来生物がもたらす影響や具体的かつ効果的な取り組みについてお話を伺います。人もツシマヤマネコも他の動物もみんな幸せに暮らす地域づくりについて、一緒に考えてみませんか？

お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

☆シンポジウムのご案内☆

開催日：2005年11月23日（水）

開 場：13:30

開 演：14:00 ～ 16:00

会 場：美津島文化会館3階会議室

参加費：無料

問合せ・申込み：0920-84-5577

ツシマヤマネコニュース



里帰りしたNo. 29♂

◇里帰り!◇

昨年引き続き、福岡市動物園で生まれた2頭のヤマネコが9月30日(金)にセンターに里帰りしました。2頭は、2004年4月19日に同じ親から生まれた兄弟のヤマネコ(No. 28、No. 29)です。今回の個体も昨年と同様、将来野生復帰させる可能性があるため非公開です。

◇交通事故!◇

8月6日(土)の早朝に、上県町佐護の国道脇で死亡しているヤマネコが発見されました。骨盤が折れていたことから、交通事故で死亡したと思われます。死亡したヤマネコは、体重約1kgのメスで、今春生まれの幼獣でした。1992年以降、ヤマネコの交通事故は34件目、そのうち死亡事故としては30件目となります。



ツシマヤマネコ 交通事故防止キャンペーン

今年も、9月22日から29日にかけて、地元警察署や交通安全協会等と協同で、交通事故防止キャンペーンが島内4カ所で行われました。

キャンペーンにはツシマヤマネコの「ろくべえ」と「つばき」も登場。ドライバーにチラシやステッカーなどを配布しながら、人にもヤマネコにもやさしい安全運転を呼びかけました。

秋から初冬にかけては、その年の春に生まれたツシマヤマネコが親離れをし、自分の棲み家を求めて分散していく季節です。そのため、若い個体の交通事故が増加する季節でもあります。

ドライバーの皆さんは事故を起こさないよう、安全運転をお願いします。



ドライバーに交通安全を呼びかけるつばき



ツシマヤマネコ生息密度マップ

今回の生息調査の結果から、ツシマヤマネコの生息密度マップを作成しました。色の濃い地域ほど、ヤマネコが多く生息していることを表します。今後、このマップを基に様々な情報を加えていき、ヤマネコの保護に役立てていく予定です。

-  高密度
-  やや高密度
-  中密度
-  やや低密度
-  低密度
-  生息情報なし



上島地域(北部)

特に上県町、上対馬町にヤマネコが比較的多く生息していることがわかりました。

美津島町賀谷地域(上島南部地域)

現在、ヤマネコの確実な生息情報が得られている最も南の地域です。

下島地域

残念ながら今回の調査では、ヤマネコの確実な生息情報を得ることができませんでした。



2002年に賀谷地域で保護されたツシマヤマネコ



第3次生息調査に関するQ & A



Q 1. ヤマネコの生息数は70~90頭とされていたが、今回80~110頭となって増えたのでは?

A 1. いいえ。今回の調査は、DNAによる識別など新しい調査手法の導入等により、前回に比べてより正確にヤマネコの生息状況が把握できています。条件をそろえるために過去の推定生息数を見直し、推移を見たところ減少が明らかになりました。

Q 2. 80~110頭ってどのような頭数?

A 2. 野生生物が生息を続けるには非常に少ない頭数で、例えば病気によりあっという間に絶滅する危険性があります。

Q 3. 下島にはヤマネコはもういないの?

A 3. いない可能性があります。いたとしても非常に少ない数だと考えられます。

Q 4. 福岡市動物園で増えたヤマネコをすぐに野生に戻しては?

A 4. 放したヤマネコが生きてゆくためには、野生に戻す前に十分なエサが確保できるような環境づくりを行う必要があります。それには長い時間がかかります。また、現在の飼育下のヤマネコをもう少し増やす必要があります。

詳しくは11月発行予定の第3次生息調査結果のパンフレットにてご紹介いたします。

ツシマヤマネコ応援団
とらやまの森再生プロジェクト

市民参加の森づくり2005

ツシマヤマネコをはじめとする対馬の生き物たちを守り、対馬のすばらしい自然を後世に残すことを目的とする「とらやまの森再生プロジェクト」。その一環として、市民参加の森づくりイベントを開催します。

今回の会場は対馬本来の森が残る「木坂海神神社」です。神社に残る「鎮守の森」観察を通して、私たちが目指す森の姿を一緒に考えてみませんか？ 森の観察後は神社前の広場でどングりのポット苗づくりを行います。ポット苗は持ち帰り、お家で苗の生長を楽しむこともできます。ご家族そろってぜひご参加下さい。



昨年の森づくりイベントの様子

とき：11月6日（日）10:00～15:00

場所：峰町 木坂海神神社

※要申し込み・参加費200円・先着30名
当日9:45から海神神社駐車場で受付開始
雨天の場合は11月20日（日）に延期
弁当・軍手（あれば移植ゴテ）をお持ち下さい

当日の流れ

- ①木坂海神神社「鎮守の森」観察会
- ②お昼休み、神社前東屋で対馬の森展示パネルの自由見学（解説つき）
- ③神社前の広場でポット苗づくり（ポット苗はお持ち帰りいただけます）
- ④希望者はイベント後、昨年の畑見学

※申し込み・問い合わせ先は対馬野生生物保護センター内 ツシマヤマネコ応援団事務局
（担当：木村・前田）TEL：0920-84-5577 / FAX：0920-84-5578

🍁 棹崎公園 お散歩観察会 🍁 9月 虫の音を聴く会 報告

25日のお散歩観察会は、秋の夕暮れに虫の音を聴く会を開きました。棹崎特有の強風に見舞われ、「夕涼みしながら」とはいきませんでした。スズムシやエンマコオロギの心地よい音、クツワムシのやかましい音など、様々な虫の音を聴くことができました。公園内では対馬の秋の風物詩、「アキマドボタル」も飛びはじめ、蛍の灯りがとてもきれいでした。



秋～冬の予定

— 毎月 第4日曜日 開催！ —

- 11月27日 「野鳥の巣箱づくりに挑戦！」
10:00～15:00 弁当持参・雨天時は室内のみ
- 12月25日 「棹崎の赤道を歩く」
10:00～14:00 弁当持参・雨天中止
- 1月24日 「ツシマヤマネコ保護の取り組み」
13:00～14:30 室内での自然教室

※詳しくはセンターまでお問い合わせ下さい。

☆休館日☆

通常は月曜が休館日ですが、月曜が祝祭日の場合は開館し、その翌日が休館日となります。また臨時休館することもありますので、その都度ご確認ください。

- 11月 7日、14日、21日、28日
- 12月 5日、12日、19日、26日
- 年末年始 12月29日の午後、30日～1月3日
- 1月 10日、16日、23日、30日

《定期購読について》

「とらやまの森」は対馬島内全戸配布です。センターのカウンターからもご自由にお持ち帰り頂いていますが、島外の方は定期購読も受付けています。詳細はセンターまでお問合せください。またバックナンバーも同様に受付けております。第31号は2006年1月発行の予定です。